

平成30年度
入学者選抜要項



弘 前 大 学

HIROSAKI UNIVERSITY

目 次

平成30年度 弘前大学入学者選抜要項

1. 入学定員（募集人員）	1
2. 入学試験日程	2
3. 入学者選抜方法等	3
4. 入学試験区分ごとの選抜方法等	5
4-1 一般入試	5
4-2 AO入試	20
4-3 社会人入試	29
4-4 私費外国人留学生入試	30
5. 障がい等のある入学志願者の事前相談	33
6. 入試情報の開示	33
7. 学生募集要項等の請求方法	33
8. 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	35
9. その他	45

弘前大学医学部医学科の入学定員の変更について

弘前大学医学部医学科の、平成20年度「新医師確保総合対策」及び平成21年度「緊急医師確保対策」に基づく暫定措置による入学定員増が、平成29年度で終了します。

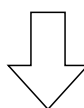
そのため、平成30年度の入学定員は下表中段のとおりとなります。

ただし、本学では終了する暫定措置の期間延長を申請することとしており、一般入試県定着枠は調整中ですので、認可後は【平成30年度変更後】となる予定です。

なお、このことは変更になる場合もありますので、今後の動向については弘前大学入試課ホームページ等でお知らせしますので、ご確認くださいませようお願いします。

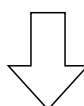
【平成29年度】暫定措置期間

入学定員	一般入試前期日程		A O入試Ⅱ	
	全国枠	県定着枠	地域枠	県内枠
112	50	12	20	30



【平成30年度】

入学定員	一般入試前期日程		A O入試Ⅱ	
	全国枠	県定着枠	地域枠	県内枠
97	50	0	17	30



【平成30年度変更後】

入学定員	一般入試前期日程		A O入試Ⅱ	
	全国枠	県定着枠	地域枠	県内枠
112	50	15	17	30

東日本大震災，平成28年熊本地震， 平成28年台風10号により被災した 弘前大学入学志願者の入学検定料の免除について

平成29年7月
弘前大学

東日本大震災，平成28年熊本地震，平成28年台風10号により，被害に遭われた方々には，心よりお見舞い申し上げます。

弘前大学では，被災者の経済的負担を軽減し，受験生の進学機会の確保を図るために，今年度を実施する入学者選抜試験について，次のとおり入学検定料免除の特別措置を講じます。

入学検定料の免除を希望される方は，申請前に必ず学務部入試課までご連絡ください。

1. 免除対象となる入学者選抜試験

平成29年度に実施する学部入試（編入学及び私費外国人留学生入試を除く）

平成29年度に実施する大学院入試（私費外国人留学生入試を除く）

2. 対象者

免除対象となる入学者選抜試験の志願者で，平成23年3月11日に発生した東日本大震災，平成28年熊本地震又は平成28年台風10号により被災し，次のいずれかに該当することの証明が得られる方

【東日本大震災により被災した方】

(1) 学資負担者が，次の災害救助法適用地域において被災し，家屋等の全壊，大規模半壊，半壊，流失の被害を受けた方

岩手県，宮城県，福島県の全市町村

青森県，茨城県，栃木県，千葉県の災害救助法適用市町村

(2) 学資負担者が震災により死亡又は行方不明になった方

(3) 居住地が福島第一原子力発電所の事故により，帰還困難区域，居住制限区域又は避難指示解除準備区域に指定された方

【平成28年熊本地震により被災した方】

(1) 学資負担者が，次の災害救助法適用市町村において被災し，家屋等の全壊，大規模半壊，半壊の被害を受けた方

熊本県の全市町村

(2) 学資負担者が熊本地震により死亡した方

【平成28年台風10号により被災した方】

(1) 学資負担者が，次の災害救助法適用市町村において被災し，家屋等の全壊，大規模半壊，半壊の被害を受けた方

北海道：帯広市，空知郡南富良野町，河東郡音更町，河東郡士幌町，河東郡上士幌町，河東郡鹿追町，上川郡新得町，上川郡清水町，河西郡芽室町，河西郡中札内村，河西郡更別村，広尾郡大樹町，広尾郡広尾町，中川郡幕別町，中川郡池田町，中川郡豊頃町，中川郡本別町，足寄郡足寄町，足寄郡陸別町，十勝郡浦幌町

岩手県：盛岡市，宮古市，久慈市，遠野市，釜石市，上閉伊郡大槌町，下閉伊郡岩泉町，下閉伊郡田野畑村，下閉伊郡普代村，九戸郡軽米町，九戸郡野田村，二戸郡一戸町

(2) 学資負担者が台風10号により死亡又は行方不明になった方

3. 申請の方法

事前に学務部入試課に電話等でお問い合わせください。免除対象と判断された方は、所定の申請書類を出願書類とともに提出してください。

なお、この申請を行う場合は、出願時に「入学検定料」を払い込まないでください。

諸事情により出願時まで証明書類が準備できない場合は、一旦入学検定料を払い込んで通常の出願を行い、後日証明書類が準備できた時点で申請書類を提出してください。許可となった場合は、払い込まれた入学検定料を返還いたします。

4. 申請書類

(1) 「入学検定料免除申請書」

(右URLからダウンロード (<http://www.hirosaki-u.ac.jp/~nyu/>))

(2) 証明書類

【東日本大震災により被災した方】

- ① 「り災証明書」(コピー可) (上記2の(1)に該当する方)
- ② 「死亡又は行方不明を証明する書類」(コピー可) (上記2の(2)に該当する方)
- ③ 「被災証明書」(コピー可) (上記2の(3)に該当する方)

【平成28年熊本地震により被災した方】

- ① 「り災証明書」(コピー可) (上記2の(1)に該当する方)
- ② 「死亡を証明する書類」(コピー可) (上記2の(2)に該当する方)

【平成28年台風10号により被災した方】

- ① 「り災証明書」(コピー可) (上記2の(1)に該当する方)
- ② 「死亡又は行方不明を証明する書類」(コピー可) (上記2の(2)に該当する方)

5. 許可又は不許可の通知について

(1) 許可者には、受験票を送付することで決定通知書に代えさせていただきます。(一旦、通常の出願を行った後の申請の場合は、入学検定料の「払戻請求書」を送付することで決定通知書に代えさせていただきます。)

(2) 不許可者には、別途通知いたします。

この場合は、直ちに入学検定料を払い込んでください。(受験票の送付は、払い込みが確認された後となります。)

6. その他

(1) 既に払い込まれた入学検定料の返還について、学務部入試課への連絡・申請が著しく遅れた場合は、申請に応じられなくなることがあります。(平成29年度中に入学検定料免除の許可が出せることが必要)

(2) 入学検定料の免除を許可された方が、免除を受けるために虚偽の申請をした場合は、許可の日にさかのぼってこれを取り消します。その場合は、直ちに入学検定料を払い込んでください。

(3) 入学料及び授業料の減免等については、本学の「入学料及び授業料の免除・徴収猶予制度」がありますので、別途申請が必要になります。

(4) 本件について、不明な点がありましたら、下記にお問い合わせください。

(本件に関する書類提出先・問合せ先)

〒036-8560 弘前市文京町1番地

弘前大学学務部入試課

【学部入試担当】 TEL: 0172 (39) 3122

【大学院入試担当】 TEL: 0172 (39) 3973

FAX: 0172 (39) 3125

弘前大学ゆめ応援プロジェクト募集要項

(平成30年度入学者)

1. 目的

本プロジェクトは、自分の夢を叶えるため本学への入学を希望しているにも関わらず、経済的理由により進学をあきらめなければならない環境にある学業優秀な者に対して、入学前に経済的負担を軽減することを確約し、優秀な学生の本学への進学を応援することを目的とします。

2. 内容

入学料 (282,000円) 全額免除

3. 採用者数

30名程度

AO入試 I・II 15名程度

一般入試 (前期日程) 15名程度

4. 申請資格

次の①及び②を満たし、本学のAO入試 I・II又は一般入試 (前期日程) に出願を予定し、合格した場合は入学を確約する者。

- ① 平成30年3月に高等学校又は中等教育学校 (以下「高等学校等」という。) を卒業見込みでかつ高等学校等調査書の全体の評定平均値が4.0以上の者。
- ② 家庭の年間総所得金額が、弘前大学における授業料免除基準以下の者。

5. 申請書類受付期間及び結果通知等

	AO入試 I・II 受験者	一般入試 (前期日程) 受験者
配付開始	平成29年8月8日(火) オープンキャンパス	平成29年10月16日(月) 本学HPにて
受付期間	平成29年9月1日(金)～9月29日(金)	平成29年11月1日(水)～11月30日(木)
提出期限	平成29年9月29日(金) 必着厳守	平成29年11月30日(木) 必着厳守
結果通知	平成29年10月26日(木) 発送	平成29年12月中旬発送

※ 申請書類は配付開始時に本学ホームページにも掲載します。所定の様式等をダウンロードし、必要書類を添付の上、期限までに提出願います。

※ 申請結果は郵送いたします。

6. 候補内定者とならなかった場合

「弘前大学ゆめ応援プロジェクト」の申請者で候補内定者とならなかった場合も、通常の「入学料免除・徴収猶予」申請が可能です。ただし、通常の入学料免除には、申請資格の特別な要件 (入学前1年以内の家計支持者の死亡、風水害等の被災) があります。選考の結果、免除許可となっても、予算の関係により半額免除となります。なお、入学料徴収猶予は、特別な要件がなくても申請可能です。

申請書類は、各選抜の学生募集要項を参照し、郵送等で請求してください。

7. 授業料免除

入学する年度の授業料免除については、通常の授業料免除申請をしていただき、選考の上、決定します。

授業料免除の決定時期は、前期が平成30年7月上旬、後期が平成30年12月上旬となります。ゆめ応援プロジェクト申請時と家計状況に大幅な変動がない場合は、全額免除又は半額免除となる予定です。

申請書類は、各選抜の学生募集要項を参照し、郵送等で請求してください。

8. 問合せ先

弘前大学学務部学生課 ゆめ応援プロジェクト担当

TEL : 0172-39-3117 (平日9時~17時)

本プロジェクトの申請及び選考（採用可否等）は、弘前大学入学試験の合否に一切影響しません。

1. 入学定員(募集人員)

学 部	学科・課程等	入学定員	募 集 人 員						
			一般入試		A O入試(※2)		社会人入試	私費外国人留学生入試	
			前期日程	後期日程	I	II			
人文社会科学部	文化創生課程	110	70	15	25			若干名	
	社会経営課程	155	国) 60 数) 40	(※1) 20	(※3) 35			若干名	
	計	265	170	35	60				
教育学部	学校教育教員養成専攻 中等教育コース	小学校コース	85	40	20		25		若干名
		国語専修	7	7					若干名
		社会専修	7	7					若干名
		数学専修	8	8					若干名
		理科専修	8	8					若干名
		音楽専修	4	2		2			若干名
		美術専修	3	3					若干名
		保健体育専修	6	3		3			若干名
		技術専修	3	3					若干名
		家庭科専修	3	3					若干名
		英語専修	6	6					若干名
		特別支援教育専攻	10	5		5			若干名
		養護教諭養成課程	20	14		6			若干名
計	170	109	20	16	25				
医学部	医 学 科	【予定】112	(※4)【予定】65			(※5) 47		若干名	
	保健 学 科	看護学専攻	80	60			20	若干名	若干名
		放射線技術科学専攻	40	30			10		若干名
		検査技術科学専攻	40	30			10		若干名
		理学療法学専攻	20	15			5	若干名	若干名
		作業療法学専攻	20	15			5		若干名
		小 計	200	150			50		
		計	312	215			97		
理工学部	数 物 科 学 科	数) 23	数) 7	(※6) 20				若干名	若干名
		数理) 23	理) 5					若干名	若干名
	物質創成化学科	52	29	10	13			若干名	若干名
	地球環境防災学科	65	30	18	17			若干名	若干名
	電子情報工学科	55	31	10	(※7) 14			若干名	若干名
	機 械 科 学 科	80	40	20	(※8) 20			若干名	若干名
	自然エネルギー学科	30	15	5	10			若干名	若干名
計	360	191	75	94					
農学生命科学部	生 物 学 科	40	26	7	7			若干名	若干名
	分子生命科学科	40	22	11	7			若干名	若干名
	食料資源学科	55	33	12	10			若干名	若干名
	国際園芸農学科(※9)	50	25	12	(※10) 13			若干名	若干名
	地域環境工学科	30	18	6	6			若干名	若干名
	計	215	124	48	43				
合 計	1,322	809	178	213	122	(※11)			

(※1) 人文社会科学部「一般入試(前期日程)」の国は個別学力検査における国語選択者、数)は数学選択者の募集人員です。
(※2) 「A O入試I」は大学入試センター試験を課さないものであり、「A O入試II」は大学入試センター試験を課すものです。
(※3) 人文社会科学部社会経営課程「A O入試I」の募集人員35人には、商業高校等卒8人を含みます。
商業高校等とは、商業に関する高等学校、商業又は情報処理に関する学科、総合学科(商業又は情報の単位を20単位以上修得した者)をいいます。
(※4) 医学部医学科「一般入試(前期日程)」の募集人員65人には、青森県定着卒の募集人員15人を含みます。ただし、このことは予定であり、変更する場合があります。
(※5) 医学部医学科「A O入試II」の募集人員47人には、青森県内出身者30人を含みます。
(※6) 理工学部「一般入試」の数)は個別学力検査における数学選択者、数理)は数学及び理科選択者、理)は理科選択者の募集人員です。
(※7) 理工学部電子情報工学科「A O入試I」では、「高等学校等の工業又は商業に関する学科(高等専門学校の学科を含む)及び総合学科」から、合わせて5人以上の合格者を予定しています。
(※8) 理工学部機械科学科「A O入試I」では、「高等学校等の工業に関する学科(高等専門学校の学科を含む)」から、3人程度の合格者を予定しています。
(※9) 農学生命科学部国際園芸農学科は、「海外研修入門」が必修単位となります。詳細については、15~16ページの注記を確認してください。
(※10) 農学生命科学部国際園芸農学科「A O入試I」では、「高等学校等の農業、林業、水産、工業、商業、情報に関する学科」から、4人程度の合格者を予定しています。
(※11) 「社会人入試」、「私費外国人留学生入試」の募集人員は、入学定員に含まれません。

2. 入学試験日程

一般入試

入試区分		日程	募集要項発表	出願期間	試験実施日	合格者発表日	入学手続日
一般入試 (前期日程)	人文社会科学部	11月下旬	1月22日(月) ～1月31日(水)	1月22日(月) ～1月31日(水)	2月25日(日)	3月6日(火)	3月15日(木)
	教育学部				2月25日(日) 及び26日(月)		
	医学部医学科				2月25日(日)		
	医学部保健学科						
	理工学部						
農学生命科学部							
一般入試 (後期日程)	人文社会科学部	11月下旬	1月22日(月) ～1月31日(水)	1月22日(月) ～1月31日(水)	3月12日(月)	3月20日(火)	3月27日(火)
	教育学部						
	理工学部						
	農学生命科学部						

A O 入試

入試区分		日程	募集要項発表	出願期間	試験実施日	合格者等発表日	入学手続日	
A O 入試 I	人文社会科学部	7月下旬	7月下旬	10月23日(月) ～10月27日(金)	11月18日(土)	11月29日(水)	2月14日(水)	
	教育学部 (音楽専修) (保健体育専修, 特別支援教育専攻, 養護教諭養成課程)				11月18日(土)			
					11月18日(土) 及び19日(日)			
	理工学部				10月6日(金) ～10月13日(金)			[第2次選抜] 11月19日(日)
農学生命科学部								
A O 入試 II	教育学部 (小学校コース)	7月下旬	7月下旬	10月23日(月) ～10月27日(金)	11月18日(土) 及び19日(日)	[合格内定者] 11月29日(水) [最終合格者] 2月6日(火)	2月14日(水)	
	医学部医学科				9月4日(月) ～9月8日(金)	[第1次選抜] 10月7日(土) 及び8日(日) [第2次選抜] 11月5日(日)		[第1次選抜] 10月20日(金) [最終合格者] 2月6日(火)
	医学部保健学科				11月6日(月) ～11月10日(金)	12月9日(土) 及び10日(日)		2月6日(火)

社会人入試

入試区分		日程	募集要項発表	出願期間	試験実施日	合格者発表日	入学手続日
社会人入試	医学部保健学科 (看護学専攻) (理学療法専攻)	7月下旬	7月下旬	10月23日(月) ～10月27日(金)	11月18日(土)	11月29日(水)	2月14日(水)
	理工学部				11月19日(日)		
	農学生命科学部						

私費外国人留学生入試

入試区分		日程	募集要項発表	出願期間	試験実施日	合格者発表日	入学手続日
私費外国人 留学生入試	(全学部)	7月下旬	7月下旬	1月22日(月) ～1月31日(水)	2月25日(日)	3月6日(火)	3月15日(木)

3. 入学者選抜方法等

一般入試

学部	学科・課程等		前期日程					後期日程					
			個別学力 検査	実技検査等			2段階 選抜 (注1)	第2志望選抜 (注2)	個別学力 検査	実技検査等			
				実技	面接	総合				面接	小論文		
人文社会 科学部	文化創生課程		○					A			○		
	社会経営課程		○					A 国語選択 × 数学選択			○		
教育学部	学校教育 教員養成 専攻課程	初等 中学校 コース	小学校コース	○							○		
			中学校 コース	国語専修	○					小学校コース への第2志望 選抜を認める (注3)			
		社会専修		○									
		数学専修		○									
		理科専修		○									
		音楽専修					○						
		美術専修					○						
		保健体育専修					○						
		技術専修		○							小学校コース への第2志望 選抜を認める (注3)		
		家庭科専修	○										
	英語専修	○											
	特別支援教育専攻		○										
	養護教諭養成課程		○										
医学部	医学科		○		○		○						
	保健学 科	看護学専攻	○					B					
		放射線技術科学専攻	○										
		検査技術科学専攻	○										
		理学療法学専攻	○					B					
	作業療法学専攻		○				B						
理工学部	数物科学科		○					× 数学選択 C 数学及び 理科選択	○				
	物質創成化学科		○					C	○				
	地球環境防災学科		○					C	○				
	電子情報工学科		○					C	○				
	機械科学科		○					C	○				
	自然エネルギー学科		○					C	○				
農学生命 科学部	生物学科		○					D	○				
	分子生命科学科		○					D	○				
	食料資源学科		○					E	○				
	国際園芸農学科		○					E	○				
	地域環境工学科		○						○				

(注1) 2段階選抜の詳細は、6ページの「4-1-7. 医学部医学科の2段階選抜の取扱い」を参照してください。

(注2) 第2志望選抜は、同一学部内の同一アルファベット間で認めます。

(注3) 教育学部の第2志望選抜は、中学校コースから小学校コースへの第2志望のみ認めます。

AO入試, その他入試

学部・学科等			選抜方法等	AO入試 (注1)		社会人入試		私費外国人留学生入試					
				AO入試 I	AO入試 II	小論文	面接	学力検査	実技	小論文	面接		
人文社会科学部	文化創生課程		①出願書類 ②小論文 ③個人面接							○	○		
	社会経営課程												
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校コース	①出願書類 ②小論文 ③集団討論 ④個人面接							○	○		
		中学校コース		国語専修								○	○
				社会専修								○	○
				数学専修								○	○
				理科専修								○	○
				音楽専修	①実技 (口頭試問を含む) ②個人面接						○		○
				美術専修							○		○
				保健体育専修	①出願書類 ②実技 ③個人面接 (口頭試問を含む)							○	○
				技術専修								○	○
		家庭科専修									○	○	
	英語専修								○	○			
	特別支援教育専攻	①出願書類 ②集団討論 ③個人面接 (口頭試問を含む)							○	○			
	養護教諭養成課程								○	○			
医学部	医学科		①出願書類 ②模擬講義に関する筆記試験 ③個人面接 (第2次選抜) (注2) ①ケーススタディの自学自習 ②ワークショップ						○		○	○	
	保健学科	看護学専攻		①出願書類 ②小論文 ③個人面接	○	○							
		放射線技術科学専攻										○	○
		検査技術科学専攻											
		理学療法学専攻 作業療法学専攻				○	○						
理工学部	数物科学科	(第1次選抜) ①出願書類 (第2次選抜) (注2) ①講義あるいは実験及びその内容に関するレポート ②個人面接 (基礎学力に関する試問を含む)											
	物質創成化学科												
	地球環境防災学科												
	電子情報工学科						○	○				○	
	機械科学科 自然エネルギー学科												
農学生命科学部	生物学科	(第1次選抜) ①出願書類 (第2次選抜) (注2) ①小論文 ②個人面接 (基礎学力に関する口頭試問を行うことがある)											
	分子生命科学科												
	食料資源学科										○	○	
	国際園芸農学科 地域環境工学科								○	○			

(注1) AO入試 I は大学入試センター試験を課さないものであり、AO入試 II は大学入試センター試験を課すものです。

(注2) 医学部医学科、理工学部及び農学生命科学部のAO入試は、第1次選抜の合格者に対して第2次選抜を実施します。

4. 入学試験区分ごとの選抜方法等

4-1 一般入試

4-1-1. 入学試験の実施方法

一般入試では、「前期日程」及び「後期日程」による「分離分割方式」で個別学力検査を実施します。ただし、教育学部の一部の課程・専攻・コース及び医学部医学科・保健学科では、「後期日程」での募集はしません。

4-1-2. 他大学及び本学学部間の併願

志願者は、「前期日程」から1つ、「後期日程」から1つの合計2つの国公立大学に出願することができます。

したがって、「前期-後期」の併願は認められますが、「前期-前期」、「後期-後期」の併願は認められません。

本学学部間においても、「前期日程」から1つ、「後期日程」から1つの合計2つの学部又は同一学科・課程に併願することができます。

なお、その場合は、それぞれに出願書類を提出し、入学検定料を納めなければなりません。

4-1-3. 出願資格

一般入試に出願することができる者は、次のいずれかに該当し、かつ、出願する学部・学科等が定める平成30年度大学入試センター試験の利用教科・科目等（7～16ページの表参照）を全て受験した者とします。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月修了見込みの者
- (3) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 文部科学大臣の指定した者（昭和23年5月31日文部省告示第47号）
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧大学入学資格検定に合格した者を含む。）で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの
- (8) 外国人を対象に教育を行うことを目的として我が国に設置された教育施設において、高等学校に対応する3年に相当する学習歴を有する者又は有する見込みの者で、本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成30年3月31日までに18歳に達するもの

※出願資格(8)の入学資格認定を申請する者は、関係する募集要項で締切を確認のうえ、あらかじめ入試課へ申し出てください。

※医学部医学科の「青森県定着枠」を受験できる者は、上記(1)～(8)のいずれかに該当し、かつ、卒業（医師国家試験合格を前提）後、下記の事項について遵守する者です。

- ①卒業後、直ちに弘前大学医学部附属病院又は医学研究科関連施設の臨床研修プログラムにしたがって臨床研修を行うこと。
- ②上記臨床研修修了後、引き続き弘前大学医学部附属病院又は医学研究科関連施設で医療に従事すること。

- ③上記①②の定めの下で、臨床研修開始後少なくとも12年間医療に従事すること。
- ④「医療従事」の範囲及び「医療従事期間中」の詳細について、別に示す確約書内容を遵守すること。

※医学部保健学科放射線技術科学専攻の志願者は、高等学校若しくは中等教育学校で数学Ⅰ～Ⅲ又は理数数学Ⅰ～Ⅱの科目を履修していることが必要です。

4-1-4. 出願上の注意

- (1) 大学入試センター試験において、本学の指定した教科・科目を受験しない場合（英語のリスニングを受験しない場合も含む。）は、受験できませんので、科目名、科目数には十分注意してください。
- (2) 個別学力検査等において、志望する学科等が課すすべての教科・科目等を受験しなければ失格となります。

4-1-5. 第2志望選抜

本学では、複数の学科・課程・専攻等に進学意欲を持つ受験者、あるいは将来複数の分野の職業に興味を持っている受験者に広く進学機会を与えるため、当該学科等の志願状況等を考慮のうえ、第2志望学科等に基づく入学者選抜を行います。

- (1) 第2志望選抜は、一般入試前期日程において実施します。
- (2) 第2志望選抜を実施する学科等は、3ページの「第2志望選抜」欄に示したとおりです。（同一学部内で、大学入試センター試験の利用教科・科目及び配点並びに個別学力検査の教科及び配点が統一されている学科等ごとに実施します）
- (3) 該当学科等の志願者のうち、複数の学科等に進学意欲を持っている者は、出願の際に第2志望学科等を指定することができます。第2志望学科等の指定がない志願者は、出願の際にその旨を意思表示してください。
- (4) 入学者の選抜は、各学科等が定める募集人員の9割を第1志望の志願者から成績順に選考し、あとの1割は第1志望・第2志望の志願者を区別せずに成績順に選考します。

4-1-6. 医学部医学科の「青森県定着枠」と「一般枠」の取扱い

- (1) 「青森県定着枠」受験者のうち合計点の点数順に上位15人【予定】を「青森県定着枠」合格者とします。
- (2) (1)の結果「青森県定着枠」において不合格となった者を「一般枠」に組み入れます。すなわち、「一般枠」と「青森県定着枠（のうち不合格者）」を併せて、上位50人を「一般枠」の合格者とします。
- (3) 上記において、面接の得点が低いと不合格になる場合があります。

4-1-7. 医学部医学科の2段階選抜の取扱い

2段階選抜は、医学部医学科前期日程の志願倍率が8倍を超えた場合に、大学入試センター試験の教科・科目（11-12ページ参照）の成績の合計点（900点満点）により行い、その合格者に個別学力検査等を行います。ただし、上記倍率を超えた場合でも個別学力検査を適切に実施できると判断した場合は、第1段階選抜の倍率を緩和することがあります。

4-1-8. 欠員の補充方法等

合格者の入学辞退等により入学定員に欠員が生じた場合は、追加して合格者を決定することがあります。この合格者の決定は、追加合格候補者に該当する受験者本人に直接連絡し、入学する意思を確認した者について行います（追加合格候補者は発表しません）。詳細については、募集要項で公表します。

4-1-9. 平成30年度入学者選抜における旧教育課程履修者に対する経過措置について

平成30年度入学者選抜における、高等学校の旧教育課程履修者に対する経過措置は行わず、個別学力検査では、すべての教科・科目について、新教育課程により出題します。

4-1-10. 平成30年度 入学者選抜の実施教科・科目等

学部名	学力検査の区分・日程 実施する学科等名		大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験の配点						個別学力検査等の配点等						配点 合計									
			教科	科目名等	教科等	科目名等	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	計	国語	数学	理科	外国語	小論文		面接	調査書	計						
人文社会科学部	前期	文化創生課程 社会経営課程 (国語選択)	国	国語	国 外	国語 (注1) コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 英語表現Ⅰ・Ⅱ	200	100	100	100 又は 200	100 又は 200	200	900	300							600	1,500						
				地歴 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B から1																			から1又は2	国語 (注1) コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 英語表現Ⅰ・Ⅱ	300	300	600	1,500
				公民 現社, 倫, 政経, 倫政経 から1																								
	数 数Ⅰ, 数Ⅰ・数A, 数Ⅱ, 数Ⅱ・数B, 簿, 情報	から1～3 (※1)	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B (注2) コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 英語表現Ⅰ・Ⅱ	300	300	600	1,500																					
理 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎, 物理, 化学, 生物, 地学	から1又は2							数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B (注2) コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 英語表現Ⅰ・Ⅱ	300	300	600	1,500																
外 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (※2)		から1又は2	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B (注2) コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 英語表現Ⅰ・Ⅱ	300	300	600	1,500																					
社会経営課程 (数学選択)																												
	後期	文化創生課程 社会経営課程			その他	小論文	200	100	100	100 又は 200	100 又は 200	200	900							900	900	1,800						
	AOI	文化創生課程 社会経営課程	人文社会科学部のAO入試Ⅰでは、大学入試センター試験を課しません。		その他	(1) 出願書類 (2) 小論文 (3) 個人面接	人文社会科学部のAO入試Ⅰでは、大学入試センター試験を課しません。						出願書類, 小論文及び個人面接の結果を総合した評価により選抜を行います。 出願書類200点, 小論文200点, 個人面接200点, 合計600点とします。															

【大学入試センター試験の利用教科・科目等】

- ※1 理科は次のA～Dのいずれかのパターンを満たしてください。
 A 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎から2科目選択
 B 物理, 化学, 生物, 地学から1科目選択
 C 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎から2科目選択及び
 物理, 化学, 生物, 地学から1科目選択 (同一名称を含む科目同士の選択も認める)
 D 物理, 化学, 生物, 地学から2科目選択
 人文社会科学部では、「数学」, 「理科」の組み合わせで成績を利用するため, 科目数不足とならないよう
 注意してください。
 (例) 「数学」が1科目の場合は, 「理科」はC又はDパターンでの受験が必要です。
 ※2 「英語」にはリスニングを含みます。

【個別学力検査等】

- (注1) 「国語」は, 「国語総合」から出題します。
 (注2) 「数B」の出題範囲は, 「数列, ベクトル」とします。

- 前期日程・後期日程では, 「調査書」の評価を5段階評価とし, 総合判定の資料とします。
 ○ 大学入試センター試験の「英語」の配点については, 筆記試験 (200点満点) とリスニング (50点満点) の合計得点を, 200点満点に換算して利用します。
 ○ 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は, 得点の高い教科・科目の成績を用います。
 ただし, 「理科」については, 第1解答科目の成績を優先して用います。

平成30年度 入学者選抜の実施教科・科目等

学部名	学力検査の区分・日程 実施する学科等名		大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験の配点						個別学力検査等の配点等						配点 合計		
			教科	科目名等	教科等	科目名等	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	計	国語	数学	理科	外国語	小論文		面接	調査書
医 学 部	前期	医 学 科	国	国語 地歴 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B 公民 現社, 倫, 政経, 倫政経 数 数I・数A 数II・数B	数 外 その他	数I・数II・数III・数A・数B (注1) コミュニケーション英語I・II・III, 英語表現I・II 面接 (注2)	3	200	100	200	200	200	900	300	300	300 (注2)	900	1,800			
	AOⅡ	医 学 科	理 外	物理, 化学, 生物 から2 (※1) 英, 独, 仏 から1 (※2) [5教科7科目]	その他	第1次選抜 (1) 出願書類 (2) 模擬講義に関する筆記試験 (3) 個人面接 (注3) 第2次選抜 (1) ケーススタディの自学自習 (2) ワークショップ		医学部医学科のAO入試では、大学入試センター試験を資格試験と位置づけ点数化はしません。						第1次選抜は、出願書類の審査並びに模擬講義に関する筆記試験及び個人面接の得点により選抜を行います。募集人員の2倍程度を第1次選抜の合格者とします。 第2次選抜は、第1次選抜の合格者に対してケーススタディの自学自習及びワークショップに対する得点及び第1次選抜の得点を総合した評価により選抜を行います。 第1次選抜 出願書類100点, 模擬講義に関する筆記試験100点, 個人面接200点 (注3) 第2次選抜 ケーススタディの自学自習100点, ワークショップ200点 合計700点							
保 健 学 科 看 護 学 専 攻	前期	保 健 学 科 看 護 学 専 攻	国	国語 地歴 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B 公民 現社, 倫, 政経, 倫政経 数 数I・数A 数II・数B, 情報 から1	数 外	数I・数II・数A・数B (注1) コミュニケーション英語I・II・III, 英語表現I・II	2	200	100	200	200	200	900	200	200	200 (注4)	200	400	1,300		
			理 外	物理, 化学, 生物 から2 (※1) 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (※2) [5教科7科目]	理 外	物理基礎・物理, 化学基礎・化学 コミュニケーション英語I・II・III, 英語表現I・II	3													200 (注4)	400
	理 外	物理, 化学, 生物 から2 (※1) 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (※2) [5教科7科目]	理 外	物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物 コミュニケーション英語I・II・III, 英語表現I・II	3	200 (注4)	200													400	1,300
	数 外	数I・数A 数II・数B, 情報 から1 物理, 化学, 生物 から2 (※1) 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (※2) [5教科7科目]	数 外	数I・数II・数A・数B (注1) コミュニケーション英語I・II・III, 英語表現I・II	2	200	200													400	1,300
	数 外	数I・数A 数II・数B, 情報 から1 物理, 化学, 生物 から2 (※1) 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (※2) [5教科7科目]	数 外	数I・数II・数A・数B (注1) コミュニケーション英語I・II・III, 英語表現I・II	2	200	200													400	1,300
	理 外	物理, 化学, 生物 から2 (※1) 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (※2) [5教科7科目]	理 外	物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物 コミュニケーション英語I・II・III, 英語表現I・II	3	200 (注4)	200													400	1,300
AOⅡ	保 健 学 科 看 護 学 専 攻 放 射 線 技 術 科 学 専 攻 検 査 技 術 科 学 専 攻 理 学 療 法 学 専 攻 作 業 療 法 学 専 攻	理 外	物理, 化学, 生物 から2 (※1) 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (※2) [5教科7科目]	その他	(1) 出願書類 (2) 小論文 (3) 個人面接		200	100	200	200	200	900	大学入試センター試験, 出願書類, 小論文及び個人面接の結果を総合した評価により選抜を行います。 大学入試センター試験 900点, 出願書類 200点, 小論文 200点, 個人面接 300点, 計 1600点とします。								

【大学入試センター試験の利用教科・科目等】

- (※1) 理科はDパターンです。ただし、地学は選択対象外。
D 物理, 化学, 生物 から2科目選択
- (※2) 「英語」にはリスニングを含みます。

【個別学力検査等】

- (注1) 「数B」の出題範囲は、「数列, ベクトル」とします。
- (注2) 医学科「一般入試 (前期日程)」の面接は、事前に提出される「自己推薦書」を資料に用いて実施します。ただし、面接の得点が低いと不合格になる場合があります。
- (注3) 医学科「AO入試Ⅱ」の面接は、事前に提出される「自己推薦書」を資料に用いて実施します。
- (注4) 「理科」の得点については、得点調整を行うことがあります。

- 医学科の2段階選抜は、前期日程の志願倍率が8倍を超える場合に、大学入試センター試験の教科・科目の成績の合計点 (900点満点) により行い、その合格者に個別学力検査等を行います。ただし、上記倍率を超えた場合でも個別学力検査を適切に実施できると判断した場合は、第1段階選抜の倍率を緩和することがあります。
- 保健学科放射線技術科学専攻「一般入試 (前期日程)」及び「AO入試Ⅱ」の志願者は、高等学校若しくは中等教育学校で数学I～Ⅲ又は理数数学I～Ⅱの科目を履修していることが必要です。
- 医学部の前期日程では、「調査書」を5段階評価し、個別学力検査とは別に総合判定の資料とします。
- 大学入試センター試験の「英語」の配点については、筆記試験 (200点満点) とリスニング (50点満点) の合計得点を、200点満点に換算して利用します。
- 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし、「地歴」, 「公民」については、第1解答科目の成績を用います。

平成30年度 入学者選抜の実施教科・科目等

学部名	学力検査の区分・日程 実施する学科等名	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験の配点						個別学力検査等の配点等						配点 合計				
		教科	科目名等	教科等	科目名等	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	計	国語	数学	理科	外国語	小論文		面接	調査書	計	
理 工 学 部	前期	数物科学科 (数学選択)	国	国語	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B (注1)	200	100		200	200	200	900		800					800	1,700	
		数物科学科 (数理学科選択)	地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B	理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B (注1)	物理基礎・物理, 化学基礎・化学 から1	2													800	1,700
		公民	現社, 倫, 政経, 倫政経																			
		物質創成化学科	数	数Ⅰ, 数Ⅱ・数A から1 数Ⅲ, 数Ⅳ・数B, 簿, 情報 から1	理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B (注1)	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎, 物理, 化学, 生物, 地学 から2又は3 (※1)	2												800	1,700	
		地球環境防災学科	理	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎, 物理, 化学, 生物, 地学	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B (注1)	物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物, 地学基礎・地学 から1	2													800	1,700
		電子情報工学科	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (※2)	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B (注1)	物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物, 地学基礎・地学 から1	2													800	1,700
		機械科学科		[5教科7科目又は5教科8科目]	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B (注1)	物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物, 地学基礎・地学 から1	2													800	1,700
	自然エネルギー学科		(※1) 理科は次のC又はDのパターンを満たしてください。 ただし、いずれの選択においても「物理基礎」, 「物理」, 「化学基礎」, 「化学」から1科目を含むこととする。 C 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎から2科目 選択及び物理, 化学, 生物, 地学から1科目選択 (同一名称を含む科目同士の受験を認める) D 物理, 化学, 生物, 地学から2科目選択 (※2) 「英語」にはリスニングを含みます。	理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B (注1)	物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物, 地学基礎・地学 から1	2													800	1,700	
	後期	数物科学科 (数学選択)			数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B (注1)	200	100		200	200	200	900		600						600	1,500
		数物科学科 (理科選択)			理	物理基礎・物理, 化学基礎・化学 から1									600 (注2)						600	1,500
		物質創成化学科			理	化学基礎・化学									600 (注2)						600	1,500
		地球環境防災学科			理	物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 地学基礎・地学 から1									600 (注2)						600	1,500
		電子情報工学科			理	物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物, 地学基礎・地学 から1									600 (注2)						600	1,500
		機械科学科			理	物理基礎・物理, 化学基礎・化学 から1									600 (注2)						600	1,500
自然エネルギー学科				理	物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物, 地学基礎・地学 から1									600 (注2)						600	1,500	
AOI	数物科学科 物質創成化学科 地球環境防災学科 電子情報工学科 機械科学科 自然エネルギー学科	理工学部のAO入試Iでは、大学入試センター試験を課しません。		その他	第1次選抜 (1) 出願書類 第2次選抜 (1) 講義あるいは実験の実施とその内容に関するレポート (2) 個人面接 (基礎学力に関する試問を含む)	理工学部のAO入試Iでは、大学入試センター試験を課しません。						第1次選抜は、出願書類による選抜を行います。募集人員の3倍程度を第1次選抜の合格者とします。 第2次選抜は、第1次選抜の合格者に対して、講義あるいは実験の実施とその内容に関するレポート及び個人面接 (基礎学力に関する試問を含む) の得点並びに第1次選抜の得点を総合した評価により選抜を行います。 第1次選抜 出願書類100点 第2次選抜 講義あるいは実験の実施とその内容に関するレポート200点, 個人面接 (基礎学力に関する試問を含む) 200点 合計500点										

【個別学力検査等】

- (注1) 「数B」の出題範囲は、「数列, ベクトル」とします。
- (注2) 「理科」の得点については、得点調整を行うことがあります。

- 前期日程・後期日程では、「調査書」の評価を5段階評価とし、総合判定の資料とします。
- 大学入試センター試験の「英語」の配点については、筆記試験 (200点満点) とリスニング (50点満点) の合計得点を、200点満点に換算して利用します。
- 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし、「地歴」, 「公民」については、第1解答科目の成績を用います。

平成30年度 入学者選抜の実施教科・科目等

農学生命科学部

学部名	学力検査の区分・日程 実施する学科等名		大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験の配点						個別学力検査等の配点等						配点 合計				
			教科	科目名等	教科等	科目名等	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	計	国語	数学	理科	外国語	小論文		面接	調査書	計	
農学生命科学部	前期	生物学科 分子生命科学科	国	国語	理	物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物	から1	200	100	200	200	200	900			400 (注2)					400	1,300	
			地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B																			から1
		公民	現社, 倫, 政経, 倫政経																				
	食料資源学科 国際園芸農学科	数	数I, 数I・数A から1 数II, 数II・数B, 簿, 情報 から1	理	物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物 地学基礎・地学	から1										400 (注2)					400	1,300	
		理	物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎, 物理, 化学, 生物, 地学	から2又は3 (※1)																			
	地域環境工学科	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (※2)	数	数I・数II・数A・数B (注1)																		
後期	生物学科 分子生命科学科 食料資源学科 国際園芸農学科	地域環境工学科	理	化学基礎・化学 生物基礎・生物	から1	200	100	200	200	200	200	900			500 (注2)						500	1,400	
																							理
AOI	生物学科 分子生命科学科 食料資源学科 国際園芸農学科 地域環境工学科	農学生命科学部のAO入試Iでは、大学入試センター試験を課しません。	その他	第1次選抜 (1) 出願書類 第2次選抜 (1) 小論文 (2) 個人面接 (基礎学力に関する口頭試問を行うことがある)																			

【大学入試センター試験の利用教科・科目等】

- (※1) 理科は次のC又はDのパターンを満たしてください。
 - C 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎から2科目選択及び
物理, 化学, 生物, 地学から1科目選択 (同一名称を含む科目同士の受験を認める)
 - D 物理, 化学, 生物, 地学から2科目選択
- (※2) 「英語」にはリスニングを含みます。

【個別学力検査等】

- (注1) 「数B」の出題範囲は、「数列, ベクトル」とします。
- (注2) 「理科」の得点については、得点調整を行うことがあります。

- 前期日程・後期日程では、「調査書」の評価を5段階評価とし、総合判定の資料とします。
- 大学入試センター試験の「英語」の配点については、筆記試験 (200点満点) とリスニング (50点満点) の合計得点を、200点満点に換算して利用します。
- 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超過して受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし、「地歴」、「公民」については、第1解答科目の成績を用います。

※注記

国際園芸農学科においては、2年次に1週間程度の「海外研修入門 (必修)」を行います。実習経費のうち、往復旅費、宿泊料等については本学の規定の範囲内で大学負担しますが、諸経費等は個人負担となります。詳細については、入学後のオリエンテーションにおいて説明します。
なお、その他の学科においては選択科目となりますが、成績や学習意欲等に基づく面接により各学科5人を上限として、同様の経費負担で履修することができます。

4-1-11. 小論文

小論文を課す学部・課程及び出題形式等

学部・課程等		出題形式等
人文社会科学部	文化創生課程（後期）	<ul style="list-style-type: none"> 人間の営みや現代社会が直面している課題について，文章などの資料を提示して，それについての自身の意見を制限字数内で記述させる。（2問，各800字以内） 文章などの資料が示していることを十分に理解したうえで設問に対して自分の考えを論理的に述べ，日本語の文章として適切な表現を用いていること等を評価する。
	社会経営課程（後期）	

4-1-12. 面接

面接を行う学部・学科等及び実施方法等

学部・学科等				実施方法等
教育学部	学校員養成課程	初等中等教育専攻	小学校コース（後期）	複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。 1人当たり15分程度
医学部	医学科（前期）			複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。 1人当たり20分程度 出願の際に提出された「自己推薦書」を面接の資料として使用する。

4-1-13. 音楽総合, 美術総合, 保健体育総合 (教育学部)

音楽総合, 美術総合, 保健体育総合を課す学部・課程等及び実施方法等

○音楽総合

学部・課程等				実施方法等
教育学部	学校教育教員養成課程	初等中等教育専攻	中学校コース	<p>調査書, 実技, 面接により, 音楽についての能力・適性を総合的に判断する。</p> <p>(面接) 複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。 1人当たり10分程度</p> <p>(実技) 課題A又はBを選択する。 いずれも実技のあと音楽に関する質疑応答を行う。</p> <p>課題A</p> <p>①コールユーブンゲン第1巻全曲から当日指定された曲を歌うこと。</p> <p>②ハイドン, モーツァルト, ベートーヴェン作曲の任意のピアノソナタの第1楽章, あるいは最終楽章を暗譜で演奏すること。ただし, 緩徐楽章は除く。場合により途中で止めることがある。</p> <p>③コンコーネ50番(中声用)の30番から40番より1曲当日指定。母音で歌うこと。</p> <p>課題B</p> <p>①コールユーブンゲン第1巻全曲から当日指定された曲を歌うこと。</p> <p>②ツェルニー 100番練習曲集, ツェルニー 30番練習曲集, ツェルニー 40番練習曲集の中から, 任意の1曲(楽譜持込可)を演奏すること。</p> <p>③声楽又は楽器(ピアノを除く)のいずれかを暗譜で演奏すること。曲目は自由, 演奏時間は原則として10分以内で, 場合により途中で止めることがある。演奏曲目の総譜を当日持参し, 試験担当者に提示すること。楽器を演奏する場合は, 各自楽器を持参すること。</p> <p>なお, 共演者を必要とする場合は, 受験者側で用意し, 必ず当日同伴とする。また, 事前にその旨を入試課に連絡すること。</p>

○美術総合

学部・課程等				実施方法等
教育学部	学校教育教員養成課程	初等中等教育専攻	中学校コース	<p>調査書, 実技, 面接により, 美術についての能力・適性を総合的に判断する。</p> <p>(面接) 複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。 1人当たり15分程度 面接時に資料・作品等を披露してもよい。その場合は, 1人で一度に搬入搬出できるものにする。</p> <p>(実技) 基本的な造形能力をみる。 鉛筆に着彩: 「モチーフは布と箱」 サイズ: 四つ切の画用紙 鉛筆, 水彩用具一式を持参すること。 試験実施時間は3時間とする。 (ただし, イーゼル, カルトン, 筆洗は教育学部で用意する。)</p>

○保健体育総合

学 部 ・ 課 程 等				実 施 方 法 等
教 育 学 部	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	初 等 中 等 教 育 専 攻	中 学 校 コ ー ス	<p>調査書，実技，個人面接により，保健体育についての能力・適性を総合的に判断する。</p> <p>(面接) 受験者1人に対し複数の教員で面接を行う。 1人当たり15分程度 保健体育専修の志望動機や適性等について審査，評価する。</p> <p>(実技) 基礎的運動能力及び高等学校保健体育実技で行われている内容と同程度の運動技能テストを行う。 次のA，B，Cの3領域のうちA領域は必修とし，更にB，Cの2領域から各1種目，計2種目を選択すること。</p> <p>A領域 基礎的運動能力についてテストを行う。</p> <p>B領域 器械運動：マット運動，鉄棒運動等の基本技能についてテストを行う。 陸上競技：走運動，跳躍運動，投てき運動の基本技能についてテストを行う。 柔道：受け身，投げ技，固め技，約束練習等の基本技能についてテストを行う。</p> <p>C領域 サッカー：パス，ドリブル，シュート等の基本技能や攻防の技能等についてテストを行う。 バスケットボール：パス，ドリブル，シュート等の基本技能や攻防の技能等についてテストを行う。 バレーボール：パス，スパイク，サービス等の基本技能や攻防の技能等についてテストを行う。</p> <p>なお，出願の際に「写真票」において，選択種目を届け出ることとする。</p> <p>持参用具 運動着・運動靴（体育館用），筆記用具，柔道を選択する場合は柔道着</p>

4-2 AO入試

4-2-1. 入学試験の実施方法等

AO入試Ⅰは、大学入試センター試験及び個別学力検査を免除して選抜を行います。

AO入試Ⅱは、大学入試センター試験を課し、個別学力検査は免除して選抜を行います。

AO入試Ⅰ・Ⅱの合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を前期日程の募集人員に加えます。

4-2-2. AO入試Ⅰ

AO入試Ⅰ														
学部等名	人文社会科学部													
出願要件	<p>次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校若しくは中等教育学校を平成24年4月以降に卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者 2. 人物、学力ともに優れ、高等学校等における調査書の全体の評定平均値が【表1】の要件を満たす者 <p>【表1】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課程</th> <th colspan="2">高等学校等の学科</th> <th>全体の評定平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化創生課程</td> <td colspan="2"></td> <td rowspan="3">調査書の全体の評定平均値が4.0以上の者</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">社会経営課程</td> <td>A</td> <td>商業に関する高等学校、商業又は情報処理に関する学科、総合学科（商業又は情報の単位を20単位以上修得した者）※1）※2）</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>上記を含む全ての学科</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1）社会経営課程では、募集人員35人のうち上記Aの中から、8人の合格者を予定している。 ※2）Aで出願する場合は、次の資格試験のいずれかに合格していること。 ・日本商工会議所主催簿記検定試験2級 ・公益財団法人全国商業高等学校協会主催簿記実務検定試験1級 ・独立行政法人情報処理推進機構主催基本情報技術者試験 ・公益財団法人全国商業高等学校協会主催情報処理検定試験1級</p>	課程	高等学校等の学科		全体の評定平均値	文化創生課程			調査書の全体の評定平均値が4.0以上の者	社会経営課程	A	商業に関する高等学校、商業又は情報処理に関する学科、総合学科（商業又は情報の単位を20単位以上修得した者）※1）※2）	B	上記を含む全ての学科
課程	高等学校等の学科		全体の評定平均値											
文化創生課程			調査書の全体の評定平均値が4.0以上の者											
社会経営課程	A	商業に関する高等学校、商業又は情報処理に関する学科、総合学科（商業又は情報の単位を20単位以上修得した者）※1）※2）												
	B	上記を含む全ての学科												
選抜方法等	<p>個人面接、小論文、学習計画書・調査書の採点結果を総合して行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 面接の方法 個人面接方式（受験者は自己PR、志望理由と入学後の学習計画、大学卒業後の進路等について5分から10分以内で口頭発表し、それに基づいて複数の教員により質疑応答を行う）1人当たり20分程度とする。（口頭発表を含む） 学習計画書やその他の資料等を見ながら、面接を受けることはできない。 2. 小論文の出題形式 一つのテーマについて論述させる。（制限字数800字） 3. 配点 <table border="1"> <thead> <tr> <th>課程</th> <th>個人面接</th> <th>小論文</th> <th>学習計画書 調査書</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化創生課程</td> <td rowspan="2">200</td> <td rowspan="2">200</td> <td rowspan="2">200</td> <td rowspan="2">600</td> </tr> <tr> <td>社会経営課程</td> </tr> </tbody> </table>	課程	個人面接	小論文	学習計画書 調査書	合計	文化創生課程	200	200	200	600	社会経営課程		
課程	個人面接	小論文	学習計画書 調査書	合計										
文化創生課程	200	200	200	600										
社会経営課程														

A O入試 I	
学部等名	教育学部 学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 音楽専修 学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 保健体育専修 学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻 養護教諭養成課程
出願要件	次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者 1. 弘前大学教育学部での勉学を強く希望する者 2. 本課程又は専攻のアドミッション・ポリシーを十分理解し、本課程又は専攻への志望動機が明確である者 3. 高等学校若しくは中等教育学校を平成24年4月以降に卒業した者及び平成30年3月に卒業見込みの者
選抜方法等	<p>○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 音楽専修</p> <p>実技及び面接により、音楽についての能力・適性を総合的に判断します。</p> <p>(面接) 複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。 1人当たり10分程度</p> <p>(実技) 課題A又はBを選択する。 いずれも実技のあと音楽に関する口頭試問を行う。</p> <p>課題A</p> <p>①コールユーブンゲン第1巻全曲から当日指定された曲を歌うこと。 ②ピアノ：「音階」同一調号による長調と短調。ただし、速度は、♩=80以上とする。 Hanon No.39のなかから当日指定。 ③ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン作曲の任意のピアノソナタの第1楽章、あるいは最終楽章を暗譜で演奏すること。ただし、緩徐楽章は除く。場合により途中で止めることがある。 ④コンコーネ50番（中声用）の35番から45番より1曲当日指定。母音で歌うこと。</p> <p>課題B</p> <p>①コールユーブンゲン第1巻全曲から当日指定された曲を歌うこと。 ②ピアノ：「音階」同一調号による長調と短調。ただし、速度は、♩=80以上とする。 Hanon No.39のなかから当日指定。 ③ツェルニー 100番練習曲集、ツェルニー 30番練習曲集、ツェルニー 40番練習曲集の中から、任意の1曲（楽譜持込可）を演奏すること。 ④声楽又は楽器（ピアノを除く）のいずれかを暗譜で演奏すること。曲目は自由、演奏時間は原則として10分以内で、場合により途中で止めることがある。演奏曲目の総譜を当日持参し、試験担当者に提示すること。楽器を演奏する場合は、各自楽器を持参すること。なお、共演者を必要とする場合は、受験者側で用意し、必ず当日同伴すること。また、事前にその旨を入試課に連絡すること。</p>

○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 保健体育専修

出願書類（スポーツ競技歴等を含む）、実技、個人面接（口頭試問を含む）により、保健体育についての知識・能力・適性を総合的に判断します。

（面接）受験者1人に対し複数の教員で面接を行う。

1人当たり30分程度

体育（体育理論を含む）、保健に関する知識等についての口頭試問を含め志望動機や適性等について多面的観点から面接を行う。

（実技）高等学校保健体育実技で行われている内容と同程度の運動技能テストを次の4種目について行う。

種目

1. 器械運動：マット運動、鉄棒運動等の基本技能についてテストを行う。
2. 陸上競技：走運動、跳躍運動、投てき運動の基本技能についてテストを行う。
3. 柔道：受け身、投げ技、固め技、約束練習等の基本技能についてテストを行う。
4. バasketボール：パス、ドリブル、シュート等の基本技能や攻防の技能等についてテストを行う。

持参用具

運動着、柔道着、運動靴（体育館用）、筆記用具

○学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻

○養護教諭養成課程

本課程又は専攻分野の複数のテーマに関する集団討論並びに目的、適性、意欲、関心を問う個人面接を行い、出願書類（調査書、自己PR書、活動報告書）の内容も含めて評価し、総合的に判断します。

（1）1日目 集団討論

本課程又は専攻分野のテーマに関して受験者同士で討論をさせる。

（2）2日目 個人面接（口頭試問を含む）

複数の教員で志望理由、適性、意欲、関心を受験者1人ずつに問う個人面接を行う。

（口頭試問を含む）

学校教育教員養成課程特別支援教育専攻においては、ロールプレイやプレゼンテーション等を含むことがある。

【配点】

課程・専攻等				出願書類	集団討論	個人面接	実技	合計
学 校 養 成 教 育 課 程	初 等 中 等 専 攻	中 学 1 校 ス	音楽専修	-	-	200	300	500
			保健体育専修	100	-	200	200	500
	特別支援教育専攻			100	200	200	-	500
	養護教諭養成課程			100	200	200	-	500

選抜方法等

出願時の
注意事項

○学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース 保健体育専修

出願書類として、校内外における体育的活動ならびにスポーツ活動について、競技成績等が分かるものがある場合、各々コピーし、A4サイズで提出すること（主要なもの5点以内）。
※提出できる資料がない場合は不要。

○学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻

○養護教諭養成課程

出願書類として、志望理由を含めた自己PR書並びに学校・家庭・地域での体験を踏まえた活動報告書を提出すること。各々について、任意のA4サイズの用紙（片面1枚）に各自で自由に作成する。

A O入試 I																			
学部等名	理工学部																		
出願要件	<p>次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校若しくは中等教育学校を平成24年4月以降に卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者、又は高等専門学校3年次を平成30年3月修了見込みの者 2. 人物が優れ、志願する学科の教育・研究内容に強い興味があり、自発的学習意欲と問題解決のための思考力及び資質を有し、かつ十分な基礎学力を有する者 <p>※1) 電子情報工学科では、「高等学校等の工業又は商業に関する学科（高等専門学校の学科を含む）及び総合学科」から、合わせて5人以上の合格者を予定しています。</p> <p>※2) 機械科学科では、「高等学校等の工業に関する学科（高等専門学校の学科を含む）」から、3人程度の合格者を予定しています。</p>																		
選抜方法等	<p>第1次選抜 出願書類（自己推薦書、調査書）により選抜を行います。 募集人員の3倍程度を第1次選抜の合格者とします。なお、志願者数により、全員を第1次選抜合格者とする場合があります。</p> <p>出願書類 100点</p> <p>第2次選抜 第1次選抜の合格者に対して、簡単な講義あるいは実験の実施とその内容に関するレポート及び個人面接（基礎学力に関する試問を含む）に対する得点並びに第1次選抜の得点を総合した評価により選抜を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 面接の方法 個人面接（基礎学力に関する試問を含む） 複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。 1人当たり15分～20分程度とする。 2. 講義あるいは実験及びその内容に関するレポート 学科ごとに講義あるいは実験を行い、その内容に関するレポートを作成する。 3. 配点 <table border="1" data-bbox="395 1312 1393 1635"> <thead> <tr> <th>学 科</th> <th>第1次選抜</th> <th>講義・実験 及びレポート</th> <th>個人面接</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>数 物 科 学 科</td> <td rowspan="5">100</td> <td rowspan="5">200</td> <td rowspan="5">200</td> <td rowspan="5">500</td> </tr> <tr> <td>物 質 創 成 化 学 科</td> </tr> <tr> <td>地 球 環 境 防 災 学 科</td> </tr> <tr> <td>電 子 情 報 工 学 科</td> </tr> <tr> <td>機 械 科 学 科</td> </tr> <tr> <td>自 然 エ ネ ル ギ ー 学 科</td> </tr> </tbody> </table>				学 科	第1次選抜	講義・実験 及びレポート	個人面接	合 計	数 物 科 学 科	100	200	200	500	物 質 創 成 化 学 科	地 球 環 境 防 災 学 科	電 子 情 報 工 学 科	機 械 科 学 科	自 然 エ ネ ル ギ ー 学 科
学 科	第1次選抜	講義・実験 及びレポート	個人面接	合 計															
数 物 科 学 科	100	200	200	500															
物 質 創 成 化 学 科																			
地 球 環 境 防 災 学 科																			
電 子 情 報 工 学 科																			
機 械 科 学 科																			
自 然 エ ネ ル ギ ー 学 科																			

AO入試 I															
学部等名	農学生命科学部														
出願要件	<p>次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者</p> <p>下記の学科又は課程を有する高等学校若しくは中等教育学校を平成24年4月以降に卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者</p> <table border="1" data-bbox="365 427 1262 730"> <thead> <tr> <th>学 科</th> <th>高校等の学科又は課程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生 物 学 科</td> <td rowspan="3">農業、林業、水産、工業、情報に関する学科、又は普通科、理数科、総合学科に関する課程</td> </tr> <tr> <td>分 子 生 命 学 科</td> </tr> <tr> <td>食 料 資 源 学 科</td> </tr> <tr> <td>国 際 園 芸 農 学 科</td> <td>農業、林業、水産、工業、商業、情報に関する学科、又は普通科、理数科、総合学科に関する課程</td> </tr> <tr> <td>地 域 環 境 工 学 科</td> <td>農業、林業、水産、工業、情報に関する学科、又は普通科、理数科、総合学科に関する課程</td> </tr> </tbody> </table> <p>※国際園芸農学科では、募集人員13人のうち、高等学校等の農業、林業、水産、工業、商業、情報に関する学科から4人程度の合格者を予定しています。</p>	学 科	高校等の学科又は課程	生 物 学 科	農業、林業、水産、工業、情報に関する学科、又は普通科、理数科、総合学科に関する課程	分 子 生 命 学 科	食 料 資 源 学 科	国 際 園 芸 農 学 科	農業、林業、水産、工業、商業、情報に関する学科、又は普通科、理数科、総合学科に関する課程	地 域 環 境 工 学 科	農業、林業、水産、工業、情報に関する学科、又は普通科、理数科、総合学科に関する課程				
学 科	高校等の学科又は課程														
生 物 学 科	農業、林業、水産、工業、情報に関する学科、又は普通科、理数科、総合学科に関する課程														
分 子 生 命 学 科															
食 料 資 源 学 科															
国 際 園 芸 農 学 科	農業、林業、水産、工業、商業、情報に関する学科、又は普通科、理数科、総合学科に関する課程														
地 域 環 境 工 学 科	農業、林業、水産、工業、情報に関する学科、又は普通科、理数科、総合学科に関する課程														
選抜方法等	<p>第1次選抜及び第2次選抜の結果を総合して行います。</p> <p>第1次選抜 出願書類（自己PR書、調査書）の審査により選抜を行います。 各学科、募集人員の3倍程度を第1次選抜の合格者とします。なお、志願倍率が3倍を超えなかった学科では、志願者全員を第1次選抜合格者とします。 出願書類 100点</p> <p>第2次選抜 第1次選抜の合格者に対して、小論文及び面接の得点並びに第1次選抜の得点を総合した評価により選抜を行います。</p> <p>1. 面接の方法 複数の教員による個人面接を20分程度で行う。具体的には、アドミッション・ポリシーに掲げた農学生命科学部及び各学科が求める学生像に適するかどうかを総合的に判断するための質問を行う。その際、出願書類（自己PR書、調査書）を面接時の参考資料にすることがある。また、面接の過程で、大学で学ぶために必要な基礎学力を確認するため、口頭試問を行うことがある。</p> <p>2. 小論文の出題形式 いくつかのテーマについて論述させる。(制限字数800字) 90分 問題文や図表に英文が含まれることがある。</p> <p>3. 配点</p> <table border="1" data-bbox="365 1615 1262 1861"> <thead> <tr> <th>学 科</th> <th>第1次選抜</th> <th>小論文</th> <th>面 接</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生 物 学 科</td> <td rowspan="5">100</td> <td rowspan="5">100</td> <td rowspan="5">100</td> <td rowspan="5">300</td> </tr> <tr> <td>分 子 生 命 学 科</td> </tr> <tr> <td>食 料 資 源 学 科</td> </tr> <tr> <td>国 際 園 芸 農 学 科</td> </tr> <tr> <td>地 域 環 境 工 学 科</td> </tr> </tbody> </table>	学 科	第1次選抜	小論文	面 接	合 計	生 物 学 科	100	100	100	300	分 子 生 命 学 科	食 料 資 源 学 科	国 際 園 芸 農 学 科	地 域 環 境 工 学 科
学 科	第1次選抜	小論文	面 接	合 計											
生 物 学 科	100	100	100	300											
分 子 生 命 学 科															
食 料 資 源 学 科															
国 際 園 芸 農 学 科															
地 域 環 境 工 学 科															

AO入試Ⅰの合格者への対応

(1) 入学前教育の実施

合格者全員を対象に、民間事業者と提携した入学前教育を実施します（受講料は本学が負担）。詳細についてはおって合格者に通知します。

(2) 大学入試センター試験の任意受験

AO入試Ⅰでは、大学入試センター試験は課していませんが、合格後から大学入学までの期間の勉学意欲の継続のため、また高校時点での基礎学力を把握し入学後のフォローに活用するため、大学入試センター試験の受験を推奨しています（検定料は本人負担）。

特に『英語』については、提供いただいた成績をもとに入学後のクラス分けに活用する予定ですので、すべての学部で設定しています（リスニングを含む）。手続については募集要項で確認してください。

受験科目は、各学部・学科で下表のとおり設定しています。

平成30年度 AO入試Ⅰ合格者に対する大学入試センター試験任意受験科目一覧

センター試験の出題教科・科目		国語	地理歴史						公民				数学①				数学②				理科								外国語	備考		
			国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学I	数学II	数学I・数学A	数学II・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理学	化学	生物学	地理学	英語(リスニング含む)				
人文社会科学部	文化創生課程	◎ 1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎ 1	6教科7 又は8科目 ※一般入試と同様
	社会経営課程																															
教育学部	音楽専修	◎ 1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎ 1	5教科7科目 から 6教科8科目 ※一般入試と同様
	保健体育専修																															
	特別支援教育専攻																															
理工学部	数物科学科												○ 1	○	○	○	○	○	○	○											◎ 1	2教科 3科目
	物質創成化学科												○ 1	○	○	○	○	○	○	○											◎ 1	2教科 3科目
	地球環境防災学科												○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎ 1	2教科2 又は3科目
	電子情報工学科												○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎ 1	3教科3 又は4科目
	機械科学科												○ 1	○	○	○	○	○	○	○											◎ 1	2教科 3科目
	自然エネルギー学科												○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎ 1	3教科3 又は4科目
農学生命科学部	生物学科	◎ 1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ 1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎ 1	5教科7 又は8科目 ※一般入試と同様
	分子生命科学科												○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎ 1	3教科4 又は5科目
	食料資源学科	◎ 1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○ 1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎ 1	5教科7 又は8科目 ※一般入試と同様
	国際園芸農学科	◎ 1											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎ 1	4教科4 又は5科目
	地域環境工学科												○	○	○	○	○	○	○	○											◎ 1	2教科 2科目

- 注意：1. この表は、AO入試Ⅰの合格者が任意で大学入試センター試験を受験する際、当該各学部・学科等における共通科目として最低限受験してほしい科目を学部学科等ごとに示す。
 注意：2. 学部・学科によっては高等学校の多様性に配慮して少なめの科目設定としているが、あくまで共通の下限設定なので、大学入試センター試験の出願時に実際に登録した科目を本学へのAO入試Ⅰ出願時にすべて記入し、そのまま受験すること。
 注意：3. ◎印はそのまま受験し、○印はグループ内から選択して受験する科目を示す。
 注意：4. □囲みの数字は受験科目数を示す。
 注意：5. 英語については、リスニングも受験すること。

4-2-3. AO入試Ⅱ

AO入試Ⅱ													
学部等名	教育学部 学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース												
出願要件	<p>次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 弘前大学教育学部での勉学を強く希望する者 2. 本課程又は専攻のアドミッション・ポリシーを十分理解し、本課程又は専攻への志望動機が明確である者 3. 高等学校若しくは中等教育学校を平成24年4月以降に卒業した者及び平成30年3月に卒業見込みの者 4. 次のとおり平成30年度大学入試センター試験の3教科3科目又は3教科4科目を受験する者 <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;"> 国（国語） 地歴（世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B） 公民（現社, 倫, 政経, 倫政経） </td> <td style="font-size: 2em; padding: 0 10px;">}</td> <td style="padding: 0 10px;">から1</td> <td rowspan="3" style="font-size: 4em; padding: 0 10px;">}</td> <td rowspan="3" style="padding: 0 10px;">から3又は4 (※3)</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;"> 数（数Ⅰ, 数Ⅰ・数A, 数Ⅱ, 数Ⅱ・数B, 簿, 情報） 理（物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎, 物理, 化学, 生物, 地学） </td> <td style="font-size: 2em; padding: 0 10px;">}</td> <td style="padding: 0 10px;">から1又は2 (※1)</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;"> 外（英, 独, 仏, 中, 韓）から1(※2) </td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(※1) 基礎を付した理科科目は、2科目選択 (※2) 「英語」にはリスニングを含みます。 (※3) 受験を要する教科・科目数を超過して受験した場合は、得点の高い科目を採用します。ただし、「地歴」、「公民」及び「理科」については、第1解答科目の成績を優先して用います。 なお、「国語」と「外国語」は100点満点に換算して利用します。</p> 	国（国語） 地歴（世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B） 公民（現社, 倫, 政経, 倫政経）	}	から1	}	から3又は4 (※3)	数（数Ⅰ, 数Ⅰ・数A, 数Ⅱ, 数Ⅱ・数B, 簿, 情報） 理（物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎, 物理, 化学, 生物, 地学）	}	から1又は2 (※1)	外（英, 独, 仏, 中, 韓）から1(※2)			
国（国語） 地歴（世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B） 公民（現社, 倫, 政経, 倫政経）	}	から1	}	から3又は4 (※3)									
数（数Ⅰ, 数Ⅰ・数A, 数Ⅱ, 数Ⅱ・数B, 簿, 情報） 理（物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎, 物理, 化学, 生物, 地学）	}	から1又は2 (※1)											
外（英, 独, 仏, 中, 韓）から1(※2)													
選抜方法等	<p>出願書類、小論文、集団討論及び個人面接の結果を総合した評価により選抜を行い、合格内定者を決定します。</p> <p>合格内定者の内、大学入試センター試験の受験した科目の中から高得点順に3教科3科目又は3教科4科目を採用し、その総合点が60%に達している者を最終合格者とします。</p> <p>ただし、2科目以下しか受験しなかった場合又は、採用した教科・科目の中に0点の科目があった場合は、不合格となります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小論文の出題形式 広い意味での教育に関する課題について文章などの資料を与え、それについての自分の考えを論述させる。(制限字数 800字) 2. 集団討論の方法 課題図書に関するテーマについて、グループで討論を行う。討論時間は1グループ当たり25分程度とする。 以下の課題図書を試験当日までに入手し、読んでおくこと。討論のテーマを設定し、受験者同士で討論をさせる。 (課題図書) 『勉強するのは何のため? -僕らの「答え」のつくり方-』 著者 苫野一徳, 発行 日本評論社, 定価 1,400円+税, ISBN: 978-4-535-56329-2 3. 個人面接の方法 複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う。 1人当たり20分程度とする。 はじめに自己PR書の内容について、口頭でプレゼンテーションをさせる。 4. 配点 <table border="1" style="margin-left: 20px; width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>課程・専攻等</th> <th>出願書類</th> <th>小論文</th> <th>集団討論</th> <th>個人面接</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース</td> <td>100</td> <td>200</td> <td>200</td> <td>200</td> <td>700</td> </tr> </tbody> </table>	課程・専攻等	出願書類	小論文	集団討論	個人面接	合計	学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース	100	200	200	200	700
課程・専攻等	出願書類	小論文	集団討論	個人面接	合計								
学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース	100	200	200	200	700								

A O入試Ⅱ																				
学部等名	医学部 医学科																			
出願要件	<p>次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者</p> <ol style="list-style-type: none"> 次にあげる地域の高等学校若しくは中等教育学校を平成29年3月に卒業した者又は平成30年3月に卒業見込みの者 【青森県, 北海道, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県】 人物, 学力ともに優れ, 高等学校等における調査書の全体の評定平均値が4.3以上の者 卒業(医師国家試験合格を前提)後, 下記の事項について遵守する者 <ol style="list-style-type: none"> 卒業後, 直ちに弘前大学医学部附属病院又は医学研究科関連施設の臨床研修プログラムにしたがって臨床研修を行うこと 上記臨床研修修了後, 引き続き弘前大学医学部附属病院又は医学研究科関連施設で医療に従事すること 上記(1)(2)の定めの下で, 臨床研修開始後少なくとも12年間医療に従事すること 「医療従事」の範囲, 医学研究科関連施設及び「医療従事期間中」の詳細について, 別に示す確約書内容を遵守すること 次のとおり平成30年度大学入試センター試験の5教科7科目をすべて受験する者 <ul style="list-style-type: none"> (国語) 国語 (地歴) 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B (公民) 現社, 倫, 政経, 倫政経 _____ から1 (数学) 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B (理科) 物理, 化学, 生物 から2 (外国語) 英, 独, 仏 から1 																			
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 第1次選抜 出願書類の審査並びに模擬講義に関する筆記試験及び個人面接の得点により選抜を行う。募集人員の2倍程度を第1次選抜の合格者とする。 第2次選抜 第1次選抜の合格者を対象としてケーススタディの自学自習及びワークショップに対する得点並びに第1次選抜の得点を総合した評価により選抜を行う。なお, 平成30年度大学入試センター試験については, 資格試験と位置づけ点数化はしません。 試験科目等の配点 <table border="1" data-bbox="363 1415 1110 1704"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>試験科目等</th> <th>配点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">第1次選抜</td> <td>出願書類</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>模擬講義に関する筆記試験</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>個人面接</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">第2次選抜</td> <td>ケーススタディの自学自習</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>ワークショップ</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>700</td> </tr> </tbody> </table> 		区 分	試験科目等	配点	第1次選抜	出願書類	100	模擬講義に関する筆記試験	100	個人面接	200	第2次選抜	ケーススタディの自学自習	100	ワークショップ	200	計		700
区 分	試験科目等	配点																		
第1次選抜	出願書類	100																		
	模擬講義に関する筆記試験	100																		
	個人面接	200																		
第2次選抜	ケーススタディの自学自習	100																		
	ワークショップ	200																		
計		700																		
そ の 他	<ol style="list-style-type: none"> 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は, 得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし, 「地歴」, 「公民」については, 第1解答科目の成績を用います。 医学部医学科が課す科目等の成績が合格水準に達しない場合の欠員は, 前期日程の募集人員に加えます。 一般入試の受験 A O入試Ⅱに合格しなかった者のうち, 本学が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で, 所要の手続きにより出願を行ったものに限り, 一般の入学志願者と同様に個別学力検査等を受けることができます。 																			

A O入試II																																									
学部等名	医学部保健学科																																								
出願要件	<p>次の要件を備え、合格した場合は入学することを確約できる者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者 2. 人物、学力ともに優れ、高等学校等の調査書において以下の要件を満たす者 <table border="1"> <tr> <td>看護学専攻</td> <td>調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者</td> </tr> <tr> <td>放射線技術科学専攻</td> <td>調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者で、「数学Ⅰ～Ⅲ」又は「理数数学Ⅰ～Ⅱ」の科目を履修した者</td> </tr> <tr> <td>検査技術科学専攻</td> <td>調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者</td> </tr> <tr> <td>理学療法学専攻</td> <td>調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者</td> </tr> <tr> <td>作業療法学専攻</td> <td>調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者</td> </tr> </table> <ol style="list-style-type: none"> 3. 次のとおり平成30年度大学入試センター試験の5教科7科目をすべて受験する者 (国語) 国語 (地歴) 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B から1 (公民) 現社, 倫, 政経, 倫政経 から1 (数学) 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 情報 から1 (理科) 物理, 化学, 生物 から2 (外国語) 英, 独, 仏, 中, 韓 から1 	看護学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者	放射線技術科学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者で、「数学Ⅰ～Ⅲ」又は「理数数学Ⅰ～Ⅱ」の科目を履修した者	検査技術科学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者	理学療法学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者	作業療法学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者																														
看護学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者																																								
放射線技術科学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者で、「数学Ⅰ～Ⅲ」又は「理数数学Ⅰ～Ⅱ」の科目を履修した者																																								
検査技術科学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者																																								
理学療法学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者																																								
作業療法学専攻	調査書の全体の評定平均値が3.5以上の者																																								
選抜方法等	<p>平成30年度大学入試センター試験, 小論文, 個人面接及び出願書類(調査書, 自己PR書)の結果を総合して行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 面接の方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>専攻</th> <th>実施方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護学専攻</td> <td rowspan="5">個人面接方式(複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う)</td> </tr> <tr> <td>放射線技術科学専攻</td> </tr> <tr> <td>検査技術科学専攻</td> </tr> <tr> <td>理学療法学専攻</td> </tr> <tr> <td>作業療法学専攻</td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> 2. 小論文の出題形式 専攻ごとに1つのテーマについて論述させる。(制限字数800字) 60分 3. 配点 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">専攻</th> <th colspan="6">大学入試センター試験</th> <th rowspan="2">出願書類</th> <th rowspan="2">小論文</th> <th rowspan="2">面接</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>国語</th> <th>地歴</th> <th>公民</th> <th>数学</th> <th>理科</th> <th>外国語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護学専攻</td> <td rowspan="5">200</td> <td rowspan="5">100</td> <td rowspan="5">200</td> <td rowspan="5">200</td> <td rowspan="5">200</td> <td rowspan="5">200</td> <td rowspan="5">200</td> <td rowspan="5">200</td> <td rowspan="5">300</td> <td rowspan="5">1,600</td> </tr> <tr> <td>放射線技術科学専攻</td> </tr> <tr> <td>検査技術科学専攻</td> </tr> <tr> <td>理学療法学専攻</td> </tr> <tr> <td>作業療法学専攻</td> </tr> </tbody> </table>	専攻	実施方法	看護学専攻	個人面接方式(複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う)	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	専攻	大学入試センター試験						出願書類	小論文	面接	計	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	看護学専攻	200	100	200	200	200	200	200	200	300	1,600	放射線技術科学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻
専攻	実施方法																																								
看護学専攻	個人面接方式(複数の教員で受験者1人ずつの面接を行う)																																								
放射線技術科学専攻																																									
検査技術科学専攻																																									
理学療法学専攻																																									
作業療法学専攻																																									
専攻	大学入試センター試験						出願書類	小論文	面接	計																															
	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語																																			
看護学専攻	200	100	200	200	200	200	200	200	300	1,600																															
放射線技術科学専攻																																									
検査技術科学専攻																																									
理学療法学専攻																																									
作業療法学専攻																																									
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験において、本学科の指定した教科・科目を受験しない場合(英語のリスニング試験を受験しない場合も含む)は、当該試験を受験しても合格者とはなりませんので科目名, 科目数には十分注意してください。 2. 大学入試センター試験の「英語」の配点は、筆記試験(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計得点を200点満点に換算して利用します。 なお、リスニングを受験しない場合は、合格者とはならないので注意してください。 3. 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目数を超えて受験している場合は、得点の高い教科・科目の成績を用います。ただし、「地歴」, 「公民」については、第1解答科目の成績を用います。 																																								

4-3 社会人入試

実施学部等	<p>医学部 保健学科（看護学専攻，理学療法学専攻）</p> <p>理工学部 数物科学科，物質創成化学科，地球環境防災学科，電子情報工学科，機械科学科，自然エネルギー学科</p> <p>農学生命科学部 生物学科，分子生命科学科，食料資源学科，国際園芸農学科，地域環境工学科</p>																				
出願要件	<p>次の各号のいずれかに該当する者で，かつ，以下に掲げる学部・学科等ごとの出願要件を満たす者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 3. 学校教育法施行規則第150条の規定（ただし，同条第6号の規定を除く）により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者 <table border="1" data-bbox="363 663 1455 938"> <thead> <tr> <th>学部・学科等</th> <th>学部・学科等ごとの出願要件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医学部保健学科 看護学専攻</td> <td>平成30年3月31日までに満21歳に達し，社会人の経験を3年以上有する者又はその見込みの者</td> </tr> <tr> <td>医学部保健学科 理学療法学専攻</td> <td>平成30年3月31日までに満22歳に達し，出願時において社会人の経験を満1年以上有する者</td> </tr> <tr> <td>理工学部</td> <td rowspan="2">平成30年3月31日までに満23歳に達し，社会人の経験を5年以上有する者又はその見込みの者</td> </tr> <tr> <td>農学生命科学部</td> </tr> </tbody> </table> <p>※社会人の経験には，アルバイト，家事従事等を含みます。ただし，全日制の学校（定時制及び通信制以外の学校）の在学期間は，社会人の経験には含みません。</p>	学部・学科等	学部・学科等ごとの出願要件	医学部保健学科 看護学専攻	平成30年3月31日までに満21歳に達し，社会人の経験を3年以上有する者又はその見込みの者	医学部保健学科 理学療法学専攻	平成30年3月31日までに満22歳に達し，出願時において社会人の経験を満1年以上有する者	理工学部	平成30年3月31日までに満23歳に達し，社会人の経験を5年以上有する者又はその見込みの者	農学生命科学部											
学部・学科等	学部・学科等ごとの出願要件																				
医学部保健学科 看護学専攻	平成30年3月31日までに満21歳に達し，社会人の経験を3年以上有する者又はその見込みの者																				
医学部保健学科 理学療法学専攻	平成30年3月31日までに満22歳に達し，出願時において社会人の経験を満1年以上有する者																				
理工学部	平成30年3月31日までに満23歳に達し，社会人の経験を5年以上有する者又はその見込みの者																				
農学生命科学部																					
選抜方法等	<p>大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し，出願書類（調査書，志望理由書等），小論文及び面接の結果を総合して判定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小論文の出題形式 一つのテーマについて論述させる。 医学部保健学科理学療法学専攻は，二つのテーマについて論述させる。 2. 面接の方法 個人面接方式（複数の教員で，受験者1人ずつの面接を行う） 1人当たり15分程度とする。 理工学部の面接では，基礎学力に関する口頭試問を含む。 医学部保健学科看護学専攻の面接では，提出された自己推薦書をふまえて5分程度の口頭発表を行った後，口頭発表の内容について複数の教員との間で質疑応答を行う。 3. 配点 <table border="1" data-bbox="363 1512 1171 1720"> <thead> <tr> <th>学部・学科等</th> <th>小論文</th> <th>面接</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医学部保健学科 看護学専攻</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>医学部保健学科 理学療法学専攻</td> <td>200</td> <td>100</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>理工学部</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>農学生命科学部</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>200</td> </tr> </tbody> </table>	学部・学科等	小論文	面接	合計	医学部保健学科 看護学専攻	100	100	200	医学部保健学科 理学療法学専攻	200	100	300	理工学部	100	100	200	農学生命科学部	100	100	200
学部・学科等	小論文	面接	合計																		
医学部保健学科 看護学専攻	100	100	200																		
医学部保健学科 理学療法学専攻	200	100	300																		
理工学部	100	100	200																		
農学生命科学部	100	100	200																		
その他	<p>合格しなかった場合の取扱い 不合格となり，改めて本学の個別学力検査（一般入試）を受験する者は，別途出願しなければなりません。</p>																				

4-4 私費外国人留学生入試

実施学部等	人文社会科学部, 教育学部, 医学部, 理工学部, 農学生命科学部																																					
出願要件	<p>入学を志願できる者は、次の(1), (2)及び(3)の全てに該当する者に限ります。</p> <p>(1) 日本の国籍を有しない者で、出入国管理及び難民認定法の規定により、大学入学に支障のない在留資格を有する者又は取得できる見込みの者(注1)</p> <p>(2) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者 若しくはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの</p> <p>② スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>④ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>⑤ 個別の入学資格審査により、我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校を修了した者又は修了見込みの者と認めた者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者</p> <p>(3) 独立行政法人日本学生支援機構が行う「平成29年度日本留学試験」(6月又は11月)において、本学が課す科目(【別表1】日本留学試験)を受験した者(注2)</p> <p>(注1) 日本国籍を有していない者であっても、日本の高等学校(中等教育学校の後期課程を含みます)を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者並びに日本国の永住許可を得ている者は、一般入試の入学志願者と同じ扱いになり、この入試には出願できません。</p> <p>(注2) 平成29年度日本留学試験の第1回、第2回のいずれも受験している場合は、利用する成績は受験者が指定するどちらか一方となります。両方の試験に分けての受験結果は認めません。</p>																																					
選抜方法等	<p>入学者の選抜は、平成29年度日本留学試験の成績と本学で実施する学力検査等の成績及び出願書類の審査の結果を総合して行います。</p> <p>1. 日本留学試験 受験を要する日本留学試験の実施月は、平成29年6月又は11月とします。 受験科目等は【別表1】のとおりとします。</p> <p>2. 本学で実施する学力検査等 【別表2】のとおりとします。</p> <p>3. 配点</p> <table border="1" data-bbox="363 1413 1209 1753"> <thead> <tr> <th colspan="2">学部・学科</th> <th>英 語</th> <th>小論文※</th> <th>面 接</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">人 文 社 会 科 学 部</td> <td>-</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td colspan="2">教 育 学 部</td> <td>-</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">医 学 部</td> <td>医 学 科</td> <td>5段階</td> <td>5段階</td> <td>5段階</td> </tr> <tr> <td>保 健 学 科</td> <td>-</td> <td>5段階</td> <td>5段階</td> </tr> <tr> <td colspan="2">理 工 学 部</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td colspan="2">農 学 生 命 科 学 部</td> <td>-</td> <td>200</td> <td>200</td> </tr> </tbody> </table> <p>※教育学部の音楽専修と美術専修は、実技検査</p>				学部・学科		英 語	小論文※	面 接	人 文 社 会 科 学 部		-	100	100	教 育 学 部		-	100	100	医 学 部	医 学 科	5段階	5段階	5段階	保 健 学 科	-	5段階	5段階	理 工 学 部		-	-	100	農 学 生 命 科 学 部		-	200	200
学部・学科		英 語	小論文※	面 接																																		
人 文 社 会 科 学 部		-	100	100																																		
教 育 学 部		-	100	100																																		
医 学 部	医 学 科	5段階	5段階	5段階																																		
	保 健 学 科	-	5段階	5段階																																		
理 工 学 部		-	-	100																																		
農 学 生 命 科 学 部		-	200	200																																		
そ の 他	入学の時期は平成30年4月とします。																																					

【別表1】日本留学試験

学部・学科等		科 目						選択方法	出題言語	
		日本語	総合科目	数 学 (コース)	理 科					
					物理	化学	生物			理科の受験科目数
人文社会科学部	文化創生課程	◎	◎	◎1又は2					日本語 又は英語	
	社会経営課程	◎	◎	◎1又は2						
教育学部	<small>員養成課程</small> <small>学校教育課程</small> 初等中等教育専攻 特別支援教育専攻	◎	◎	◎1又は2				総合科目又は 理科を選択	日本語 又は英語	
		◎		◎2	○	○	○			○から2科目
	養護教諭養成課程	◎	◎	◎1又は2				総合科目又は 理科を選択		
		◎		◎1又は2	○	○	○			○から2科目
医学部	医 学 科	◎		◎1又は2	◎	◎		◎を2科目	日本語	
	保健学科	看護学専攻	◎		◎1又は2		◎	◎		◎を2科目
		放射線技術科学専攻	◎		◎2	◎	◎			◎を2科目
		検査技術科学専攻	◎		◎1又は2	○	○	○		○から2科目
		理学療法学専攻	◎		◎1又は2	○	○	◎		◎生物必修, さらに○から1科目
		作業療法学専攻	◎		◎1又は2	○	○	○		○から2科目
理工学部	数物科学科	◎		◎2	◎	◎		◎を2科目	日本語	
	物質創成化学科									
	地球環境防災学科									
	電子情報工学科									
	機械科学科									
自然エネルギー学科										
農学生命科学部	生物学科	◎		◎1又は2	○	○	○	○から2科目	日本語 又は英語	
	分子生命科学科									
	食料資源学科									
	国際園芸農学科									
地域環境工学科										

注) ◎印は必修科目, ○は選択科目を表します。

【別表2】 本学が課す学力検査等

学部・学科等		学力検査	小論文	実技	面接	
人文社会科学部	文化創生課程 社会経営課程		○		○注1)	
教育学部	学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻 中学校コース	小学校コース		○	○	
		国語専修 社会専修 数学専修 理科専修		○	○	
		音楽専修 美術専修			○	○
		保健体育専修 技術専修 家庭科専修 英語専修		○		○
		特別支援教育専攻		○		○
	養護教諭養成課程		○		○	
医学部	医学科	○注2)	○		○	
	保健学科 看護学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法科学専攻 作業療法科学専攻		○		○注3)	
理工学部	数物科学科 物質創成化学科 地球環境防災学科 電子情報工学科 機械科学科 自然エネルギー学科				○注4)	
農学生命科学部	生物学科 分子生命科学科 食料資源学科 国際園芸農学科 地域環境工学科		○		○	

注1) 人文社会科学部の面接では、英語の基礎学力に関する試問を含みます。

注2) 医学部医学科の学力検査は、「英語」の筆記試験を行います。

注3) 医学部保健学科の面接では、基礎学力に関する試問を含みます。

注4) 理工学部の面接では、基礎学力に関する試問を含みます。

5. 障がい等のある入学志願者の事前相談

病気・負傷や障がい等のある入学志願者のうち、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする方は、各募集要項で締切を確認のうえ、あらかじめ入試課へ申し出てください。

弘前大学学務部入試課
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
電話 0172 (39) 3122・3123


6. 入試情報の開示

詳細については、それぞれの募集要項に掲載します。

7. 学生募集要項等の請求方法

7-1 学生募集要項の請求方法

7-1-1 弘前大学ホームページから請求する場合

ホームページから  テレメールを利用して資料請求できます。
詳しくは本学ホームページ
(<http://www.hirosaki-u.ac.jp/~nyu/>) をご覧ください。

7-1-2 スマートフォン・携帯電話から請求する場合

テレメール請求用バーコードからアクセスしてください。



7-1-3 電話で請求する場合

- ① 次の電話番号にダイヤルしてください。
I P 電話 050 (8601) 0101
- ② 次の資料請求番号（6桁）をプッシュしてください。

資 料 名	資料請求番号		
大学案内	560562		
学生募集要項（AO入試）人社，教育，理工，農生	580572		
学生募集要項（AO入試Ⅱ）医学部医学科	560722		
学生募集要項（AO入試Ⅱ）医学部保健学科	621192		
学生募集要項（社会人入試）	580622		
学生募集要項（私費外国人留学生入試）	580592		
学生募集要項（一般入試）	580552		
大学案内 + 学生募集要項（AO入試）人社，教育，理工，農生	580582		
大学案内 + 学生募集要項（AO入試Ⅱ）医学部医学科	621182		
大学案内 + 学生募集要項（AO入試Ⅱ）医学部保健学科	600702		
大学案内 + 学生募集要項（社会人入試）	540622		
大学案内 + 学生募集要項（私費外国人留学生入試）	540592		
大学案内 + 学生募集要項（一般入試）	540552		
各学部案内 / 資料請求番号			
人文社会科学部	560572	教育学部	560582
医学部医学科	540562	医学部保健学科	560592
理工学部	540572	農学生命科学部	540582

- ③ 後は、ガイダンスに従って登録してください。

7-1-4 弘前大学入試課窓口で入手する方法

直接来学した方には、入試課窓口[8:30～17:00]において資料を無料で配布しています。
ただし、土曜・日曜、祝日を除きます。

7-2 学生募集要項の配布予定時期

募集要項名	配布予定時期
学生募集要項（AO入試）人社，教育，理工，農生	7月下旬より配布開始（予定）
学生募集要項（AO入試Ⅱ）医学部医学科	
学生募集要項（AO入試Ⅱ）医学部保健学科	
学生募集要項（社会人入試）	
学生募集要項（私費外国人留学生入試）	11月下旬より配布開始（予定）
学生募集要項（一般入試）	

7-3 問合せ先

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
弘前大学 学務部 入試課
電 話 0172 (39) 3122・3123
F A X 0172 (39) 3125
E-mail nyushi@hirosaki-u.ac.jp

8. 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

－ 世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学 －

弘前大学は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めています。

- － 入学後に修める教養教育と専門教育の基礎となる学力
- － 自立した個人として、又は多様な人々と協働して、国際社会や地域社会に参画していこうとする行動力
- － 生涯にわたって知的好奇心を持ち続け、知的・人格的に成長していこうとする意欲

上記の学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的に評価する大学入試を実施します。

各学部のアドミッション・ポリシー

人文社会科学部

1) 人文社会科学部が求める学生像

人文社会科学部では、多元的な文化理解と現代社会に対する多面的理解を重視した教育カリキュラムを提供することによって、地域文化を含む自国の文化を創造し発信する力、地域課題を含めて現代社会が直面している諸課題を発見・分析・解決する力を養い、地域社会に貢献する人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

【文化創生課程】

- 人文科学の諸領域（考古学、民俗学、芸術、歴史学、哲学、文学、外国語等）にかかわる専門知識・技能等を習得するのに十分な基礎学力を有する人
- 国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人
- 地域の文化振興や地域のグローバル化の推進等への貢献をとおして、地域社会の発展のために積極的に行動できる人

【社会経営課程】

- 社会科学の諸領域（経済学、法学、会計学、経営学、社会学、人類学、統計学、情報科学等）にかかわる専門知識・技能等を習得するのに十分な基礎学力を有する人
- 少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題の発見と解決に意欲的である人
- 自治体の政策立案や地域産業の育成、地域住民との協働による問題解決等への貢献をとおして、地域社会の発展のために積極的に行動できる人

2) 入学者選抜の基本方針

(1) 前期日程

高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、大学入試センター試験の結果、個別学力検査の結果及び調査書の内容を総合して選抜します。

(2) 後期日程

高等学校修了レベルの学習の成果を幅広く応用・展開し、さまざまな課題を多面的に把握し解決するための資質・能力を評価するという観点から、大学入試センター試験の結果、個別学力検査(小論文)の結果及び調査書の内容を総合して選抜します。

(3) AO入試I

人文社会科学部のアドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで、本学部の教育カリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、個人面接、小論文、学習計画書・調査書の採点結果を総合して選抜します。

・入学前に身に付けておいてほしいこと

人文社会科学部には、文化創生課程、社会経営課程という二つの課程があります。

いずれの課程で学ぶ場合も、高等学校における学習内容は重要です。人文社会科学分野の学問の基礎をなすものとして、国語(現代国語、古文、漢文、国語表現等)や外国語(英語のほか、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語等)の勉強によって養われるコミュニケーション能力、数学や情報の勉強によって養われる数学的思考力、数的処理能力や情報処理能力、社会(世界史、日本史、地理、現代社会、倫理、政経、倫理・政経等)の勉強によって養われる歴史文化や社会に関する基礎知識を身につけておく必要があります。

1年次には、英語で講義する科目もあります。英語などの外国語の検定資格等に積極的に挑戦するなどして、外国語の力を鍛えておいてください。

教育学部

1) 教育学部が求める学生像

教育学部では、子どもの発育発達や能力に応じた主体的な学びを支援することのできる、学校現場で活躍できる専門力と実践力を兼ね備えた教員を養成することを目的としています。この観点から「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・入学後に修める教養教育と専門教育の基礎となる学力
- ・自立した個人として、又は多様な人々と協働して、地域社会における教育に参画していこうとする行動力
- ・教育者を目指して知的・人格的に成長していこうとする意欲

また、教育学部の各課程・専攻は、それぞれ次のような特徴を持った学生を求めます。

【学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻】

- ・小・中学校等の教員として必要な専門力を修得するための基礎的な学力と、実践力を身に付けるために自律的・協働的に取り組む行動力のある人
- ・将来、小・中学校等の教員として、学校教育に貢献したいという強い意志と、明確な目標を持っている人

【学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻】

- 「障害」に関して、教育や福祉、心理、病理など多方面から学ぶための基礎的な学力と、「障害」への関わりを深めていく行動力のある人
- 将来、特別支援学校をはじめとする学校等教員として、特別な支援を必要とする児童・生徒の自立に向けた活動に関わることを強く希望する人

【養護教諭養成課程】

- 養護教諭として必要な救急処置や保健指導、健康相談等の専門力を修得するための基礎的な学力と、実践力を身に付けるために自律的・協働的に取り組む行動力のある人
- 子どもの健康問題に高い関心をもち、子どもたちに対し、生涯を通して生命を大切にし、自らの健康を守り高めていける力を身に付けさせたいと願い、養護教諭になりたいという強い意志を持つ人

上記の学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的に評価する大学入試を実施します。

2) 入学者選抜の基本方針

(1) 前期日程

大学入試センター試験、個別学力検査、実技や面接を含む総合的な検査及び調査書の結果を総合して選抜します。主として大学入試センター試験の成績では基礎学力を、個別学力検査では基礎学力を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力などを評価します。また実技では主に技能・判断力・表現力・主体性・協働性を、面接では主に目的・適性・意欲・関心を評価します。

(2) 後期日程

大学入試センター試験、面接を含む総合的な検査及び調査書の結果を総合して選抜します。主として大学入試センター試験の成績では基礎学力を、面接を含む総合的な検査及び調査書では主に専攻に対する目的・適性・意欲・関心を評価します。

(3) AO入試Ⅰ

出願書類、各専門分野に関する集団討論、個人面接及び実技を総合的に評価して選抜します。集団討論では主に思考力・判断力・表現力・主体性・協働性を、出願書類と個人面接では主に各専門分野に対する目的・適性・意欲・関心を評価します。また実技では主に技能・判断力・表現力・主体性・協働性を評価します。

(4) AO入試Ⅱ

大学入試センター試験、出願書類、専門分野に関する小論文、集団討論及び個人面接を総合的に評価して選抜します。主として大学入試センター試験では基礎学力を、小論文では思考力・判断力・表現力を、集団討論ではこれらに加えて主体性・協働性を、出願書類と個人面接では専門分野に対する目的・適性・意欲・関心を評価します。

医学部医学科

1) 医学部医学科が求める学生像

医学部医学科では、豊かな人間性と高度の医学知識に富み、広い視野と柔軟な思考力をもって社会的役割を的確に果たすことができる医師及び医学研究者の養成を目的としています。

そのような人材の養成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- 医学教育を受けるに十分な素養で、入学後に修める教養教育と専門教育の基礎となる学力
- 他人を思いやるやさしさと社会性を持ちながら、高度で先端的な医療を地域社会と連携しながら実践してゆく行動力
- 生涯にわたり医師として医療・医学に貢献したいという明確な目的を持ち、何事にも前向きに取り組み、知的・人格的に成長していこうとする意欲

上記の学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的に評価する大学入試を実施します。

2) 入学者選抜の基本方針

(1) 前期日程

大学入試センター試験、個別学力検査、面接及び調査書の結果を総合して選抜します。

主として大学入試センター試験の成績では基礎学力を、個別学力検査では、考察力、推理力、論理的思考力、記述力を評価します。面接では医療人としての適性を評価します。

(2) AO入試Ⅱ

出願書類、大学入試センター試験、面接、模擬講義に関する筆記試験、ケーススタディの自学自習、ワークショップの結果を総合して選抜します。主として大学入試センター試験の成績では基礎学力を、模擬講義に関する筆記試験、ケーススタディの自学自習及びワークショップでは、考察力、推理力、論理的思考力、記述力を評価します。面接では医療人としての適性を評価します。

(3) 学士編入学(第2年次)

出願書類、TOEFL、基礎自然科学・数学、ワークショップ、面接の結果を総合して選抜します。TOEFL、基礎自然科学・数学では基礎学力を、ワークショップでは、考察力、推理力、論理的思考力、記述力を評価します。面接では医療人としての適性を評価します。

医学部保健学科

1) 医学部保健学科が求める学生像

医学部保健学科では、保健医療の高度な知識及び技術を習得し、豊かな人間性と問題解決能力を備え、創造性、独創性と国際的視野を有し、社会で活躍できる人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解し、保健医療専門職が掲げる目的を意識し、社会貢献に意欲がある人、保健医療専門職のための教育を受ける十分な学力と強い意欲・行動力のある人、他人を思いやるやさしさと社会性のある人を求めます。

医学部保健学科には、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻があります。専攻ごとに、次にあげるような学生を求めます。

【看護学専攻】

- 実践の科学である看護学を修めるために必要な基礎学力を有する人
- 思考力・判断力・表現力を発揮し、協働して社会に参画する行動力を有する人
- 自ら健康維持に努め、知識・技能を修め、知的・人格的に成長しようとする意欲のある人

【放射線技術科学専攻】

- 入学後に修める教養教育と診療放射線技師養成のための専門教育の基礎となる学力を有する人
- チーム医療の一員として他の医療技術者と協調して参画する行動力のある人
- 生涯にわたり向上心・探究心を持ち続け、知的・人格的に成長しようとする意欲のある人

【検査技術科学専攻】

- 臨床検査技師の知識と技術を修得できる十分な基礎学力を備えた人
- チーム医療の一員として活躍できる協調性を有し、保健医療の発展のために積極的に行動できる人
- 保健医療が進歩発展する中で直面する課題の解決に意欲のある人

【理学療法学専攻】

- 人の健康と体の動きに関心を持ち、理学療法学を科学的に探求できる基礎学力を備えている人
- 尊敬、思いやり、協調を基調とする態度が身につけており、障害者等が抱える様々な問題の解決に努力を惜しまずに取り組むことができる人
- 理学療法士を目指す意志が強く、障害者等のリハビリテーションに貢献したいという意欲が旺盛な人

【作業療法学専攻】

- 作業療法士の知識技術等を修得するのに十分な基礎学力を有する人
- チーム医療の一員として活躍できる協調性を有し、リハビリテーション医療の発展のために積極的に行動できる人
- リハビリテーション医療が進歩発展するなかで直面する課題の解決に意欲ある人

2) 入学者選抜の基本方針

いずれの専攻で学ぶ場合も、高等学校における多くの学習内容が基礎的な知識として必要となります。それぞれの保健医療専門職を目指すためには、国語、外国語（英語ほか）の学習によるコミュニケーション能力、数学、理科（物理、化学、生物ほか）の学習による生命現象を理解する能力、社会（世界史、日本史、倫理、政治、経済ほか）の学習による社会状況を見通す能力の基礎知識を身につけておく必要があります。

(1) 前期日程

大学入試センター試験、個別学力検査及び調査書の結果を総合して選抜します。

主として大学入試センター試験の成績では基礎学力を、個別学力検査では、考察力、推理力、論理的思考力、記述力を基準に評価します。

(2) A O入試Ⅱ

大学入試センター試験、面接、小論文及び出願書類（調査書、自己PR書）の結果を総合して選抜します。

主として大学入試センター試験の成績では基礎学力を、小論文では論理的思考能力・表現力等を、面接及び出願書類（調査書、自己PR書）では保健医療専門職者としての資質、適性、意欲等を評価します。

(3) 第3年次編入学

保健医療専門職者としての向上力、意欲等を評価するために、学力検査、小論文、面接及び提出書類の結果を総合して選抜します。

（理学療法学専攻以外では、提出書類は面接の基礎資料です。）

理 工 学 部

1) 理工学部が求める学生像

理工学部では、変化する現代社会に対応できる幅広い視野と科学・技術の発展に貢献できる力を養う教育カリキュラムを提供することによって、自然のしくみを探究する力、先端技術社会を支える科学を発展させ技術を創造する力、変化する現代社会が直面する課題を発見・分析・解決する力を養い、地域や国際社会に貢献する人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

【数物科学科】

（数学型）

- 数理科学に関する諸学問を学ぶための学力を有し、数理科学への強い興味を持ち探究心が旺盛で、問題や課題を見だし、豊かな数学的知識と自在な数理的応用力をもって世に出ることに意欲的である人
- 専門を生かし、新たな課題を解決するために学び続ける意欲と行動力のある人

（物理型）

- 物理学に関する諸学問を学ぶための学力を有し、電子や陽子等の極微粒子のミクロな世界から広大な宇宙の世界までを統一的に支配している自然の基本原理の探求に興味を持ち、問題や課題を見だし、先端物理学の社会への還元を目指した工学への応用に意欲的である人
- 専門を生かし、新たな課題を解決するために学び続ける意欲と行動力のある人

【物質創成化学科】

- 物質創成化学に関する諸学問を学ぶための学力を有し、自ら課題を見だし、物質の構造や反応のしくみを物質の機能と結びつけて探求することに意欲的である人
- 暮らしを豊かにする機能性物質の開発、環境調和を指向した機能性材料、リサイクル技術、省エネルギー・省資源技術に関する諸課題を解決していく研究開発に意欲的である人
- 専門を生かし、新たな課題を解決するために学び続ける意欲と行動力のある人

【地球環境防災学科】

- 地球環境防災学に関する諸学問を学ぶ学力を有し、宇宙空間、大気・水圏、地質・岩石、地震・火山等を対象とした地球科学の基礎知識を身につけた上で、課題を見だし、観測・実験・モデル化など発展的な取り組みに意欲的である人
- 地球に関する科学や工学を通して、地球環境問題の解決や自然災害の防止に資する新たな課題の解決に意欲的である人
- 専門を生かし、さまざまな社会でその一員として学び続ける意欲と行動力のある人

【電子情報工学科】

- 電子情報工学に関する諸学問を学ぶための学力を有し、電子回路やそれらを形作る電子材料、コンピュータの基礎原理やソフトウェアの基本、コンピュータネットワークの動作原理・通信手段やセキュリティ、組み込みシステム設計などの学習に意欲的である人
- 電子情報工学の最新技術を身に付けること、および様々な分野においてその成果を活用することに意欲的である人
- 専門を生かし、新たな課題を見いだすとともに、課題を解決するために学び続ける意欲と行動力のある人

【機械科学科】

- 機械科学に関する諸学問を学ぶ学力を有し、医用・福祉、環境・エネルギー、航空宇宙、輸送機械、ロボット、ナノテクノロジー等の科学技術分野で要求される「未来型機械システム」の設計・開発に意欲的である人
- 専門を生かし、新たな課題を見いだすとともに、課題を解決するために学び続ける意欲と行動力のある人

【自然エネルギー学科】

- 自然エネルギーに関する諸学問を学ぶ学力を有し、自然や人間社会に深い興味を持ちそれらの知識を身につけることに意欲的である人
- 地域に存在する自然エネルギー源を利用することや、その活用に意欲的である人
- 専門を生かし、新たな課題を見いだすとともに、課題を解決するために学び続ける意欲と行動力のある人

2) 入学者選抜の基本方針

(1) 前期日程

高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、大学入試センター試験の結果、個別学力検査の結果および調査書の内容を総合して選抜します。

(2) 後期日程

高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、大学入試センター試験の結果、個別学力検査の結果および調査書の内容を総合して選抜します。

(3) AO入試 I

理工学部のアドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで、本学部の教育カリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、自己推薦書、志望理由書、調査書、講義あるいは実験及びその内容に関するレポート、基礎学力に関する試問を含む個人面接の採点結果を総合して選抜します。

(4) 3年次編入学

①推薦選抜

理工学部のアドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで、本学部の教育カリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、面接、志望理由書、推薦書および調査書又は成績証明書の結果を総合して選抜します。

②一般選抜

理工学部のアドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで、本学部の教育カリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、面接、志望理由書および調査書又は成績証明書の結果を総合して選抜します。

・入学前に身につけておいてほしいこと

理工学部には、6つの学科があります。いずれの学科で学ぶ場合も、問題や課題を見いだす力、解決する力、学び続ける力を身につけるために高等学校における学習内容は重要です。理工学分野の学問を学ぶための基礎的な力として、数学の勉強によって培われる論理的思考力、理科（物理、化学、地学等）の勉強によって培われる自然科学に関する基礎知識、国語や外国語の勉強によって培われる表現やコミュニケーションの能力を身につけておく必要があります。数学と自然科学の基礎知識は、理工学分野を学習するための共通の礎となるものです。基礎となることがらをしっかりと身につけておいてください。

農学生命科学部

1) 農学生命科学部が求める学生像

農学生命科学部では、農学と生命科学分野の基礎的・専門的な知識を身につけ、課題探求・問題解決能力を備えた専門技術者・研究者として活躍でき、創造性と主体性をもって地域はもとより国際的にも活躍できる人材を育成することを目的としています。この目的のため、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- 入学後に修める教養教育や、農学および生命科学の各分野の専門教育に必要な基礎学力
- 農学および生命科学を通して国際社会や地域社会に参画しようとする行動力
- 農学と生命科学に興味を持ち、これらの基礎的・専門的な知識を継続的に学びたいとする意欲

また、農学生命科学部の各学科では、それぞれ以下のような特徴のある学生を求めます。

【生物学科】

- 教養教育を基盤とし、生命科学の各分野の専門教育を理解していくために必要な基礎学力を持つ人
- 基礎から応用までの生命科学を通して国際社会や地域社会に参画しようとする行動力を持つ人
- 生物学に強い興味を持ち、これらの基礎的・専門的な知識を継続的に学びたいとする意欲のある人
 - 動植物の生命現象の解析を通じて、生物の基礎的現象のしくみの解明に意欲のある人
 - 生物の生態や分類に興味を持ち、生物が持つ多様性、適応戦略、進化のメカニズムの解明に意欲のある人

【分子生命科学科】

- 入学後に修める教養教育や生命科学の専門教育に必要な基礎学力（特に英語・化学・生物）を持つ人
- 生命科学を通して国際社会、地域社会および学問の発展に寄与しようとする行動力を持つ人
- 生命現象の不思議や未知の生物機能について、細胞レベル・遺伝子レベル・分子レベル・原子レベルで解明したり、生物のもつ潜在能力を掘り起こして次世代のバイオテクノロジーを創り出していく意欲のある人

【食料資源学科】

- 入学後に修める教養教育や、食料資源学の各分野の専門教育に必要な基礎学力を持つ人
- 食料資源学の各分野の学修成果を基に国際社会や地域社会に参画しようとする行動力を持つ人
- 食料資源学の各分野に興味を持ち、これらの基礎的・専門的な知識を継続的に学びたいとする意欲のある人

【国際園芸農学科】

- 入学後に修める教養教育や、農業生産領域や食と農業の経済領域の各分野の専門教育に必要な基礎学力を持つ人
- 農業生産領域や食と農業の経済領域を学ぶことを通して国際社会や地域社会に参画しようとする行動力を持つ人
- 農業生産領域や食と農業の経済領域に興味を持ち、これらの基礎的・専門的な知識を継続的に学びたいとする意欲のある人

【地域環境工学科】

- 入学後に修める教養教育や、地域環境工学の各分野の専門教育に必要となる高校の教科全般、特に数学、理科系の基礎学力を持つ人
- 自立した技術者として、多様な人々と協働し、社会的責任を自覚し、継続的に学修し、国内外の地域社会に参画していこうとする行動力を持つ人
- 水・土・農業土木関連施設や農村・山間地に関わる総合的な知識を習得した技術者として、国内外の地域社会の問題解決や発展に貢献しようとする意欲のある人

2) 入学者選抜の基本方針

(1) 前期日程・後期日程

大学入試センター試験、個別学力検査及び調査書の結果を総合して選抜します。大学入試センター試験による基礎学力の評価とともに、個別学力検査を課すことによって、総合的学力の優れた人の選抜を目指しています。

(2) AO入試 I

小論文、面接、自己PR書及び調査書の結果を総合して選抜します。小論文の内容の評価と面接における質疑応答では、農学生命科学部および各学科の「求める学生像」に適している人の選抜を目指しています。

(3) 3年次編入学

小論文、面接、出願書類の結果を総合して選抜します。小論文の内容の評価と面接における質疑応答では、各学科の教育研究内容に関連する専門的基礎素養を持った人の選抜を目指しています。

9. その他

9-1 「入試過去問題活用宣言」について

本学は「入試過去問題活用宣言」に参加しており、アドミッション・ポリシーを実現するため必要と認められる範囲で「宣言参加大学」及び「提供大学」の入試過去問題を使用して出題することがあります。ただし、必ず使用するとは限りません。

入試過去問題を使用する際は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。また、使用した場合には、入試終了後、本学ホームページ上で公表します。

※関連サイト「入試過去問題活用宣言ページ」→ <http://www.nyushikakomon.jp/>

9-2 学外試験場について

本学では、一般入試（前期日程）において、学外試験場を設けます。

学部・学科名	試験実施会場		
	弘前地区 試験場	八戸地区 試験場	札幌地区 試験場
人文社会科学部	○	○	○
教育学部	○	○*	○*
医学部医学科	○	×	×
医学部保健学科	○	○	○
理工学部	○	○	○
農学生命科学部	○	○	○

*音楽専修・美術専修・保健体育専修を除く

・ **弘前地区試験場** … 弘前大学

実際に試験会場となる校舎・施設等については、「学生募集要項（一般入試）」でご確認願います。

・ **八戸地区試験場** … 八戸地域地場産業振興センター（ユートリー）

青森県八戸市一番町1丁目9-22

・ **札幌地区試験場** … 北海道科学大学

札幌市手稲区前田7条15丁目4-1

◎なお、学外試験場に関するご質問は、弘前大学学務部入試課（0172-39-3122）へお願いします。八戸地域地場産業振興センター及び北海道科学大学には直接問い合わせることのないようお願いします。

◎また、一般入試（後期日程）、AO入試、社会人入試、私費外国人留学生入試については、学外試験場は設けず、全て弘前大学で試験を実施しますので御留意願います。

入試全般についての問合せ先

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
弘前大学学務部入試課
電話 0172 (39) 3122, 3123



弘前大学
携帯電話サイト

医学科AO入試Ⅱに関する問合せ先

〒036-8562 青森県弘前市在府町5番地
弘前大学
医学研究科学務グループ学務担当
電話 0172 (39) 5204

保健学科AO入試Ⅱに関する問合せ先

〒036-8564 青森県弘前市本町66-1
弘前大学
保健学研究科学務グループ
電話 0172 (39) 5911